北支
現地編輯
THE NORTH CHINA
10

蒙古曠原の秋

駱駝のむれ

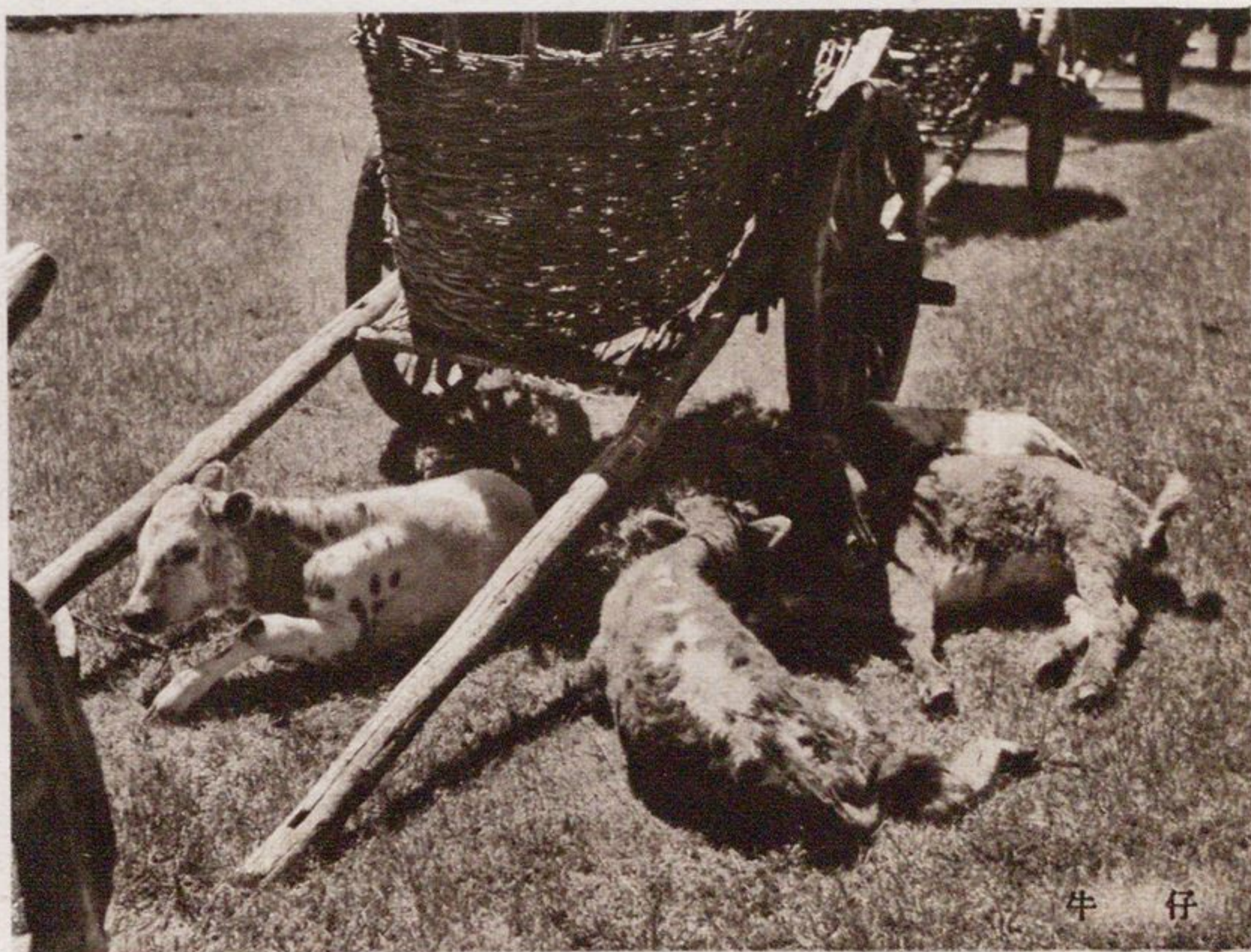
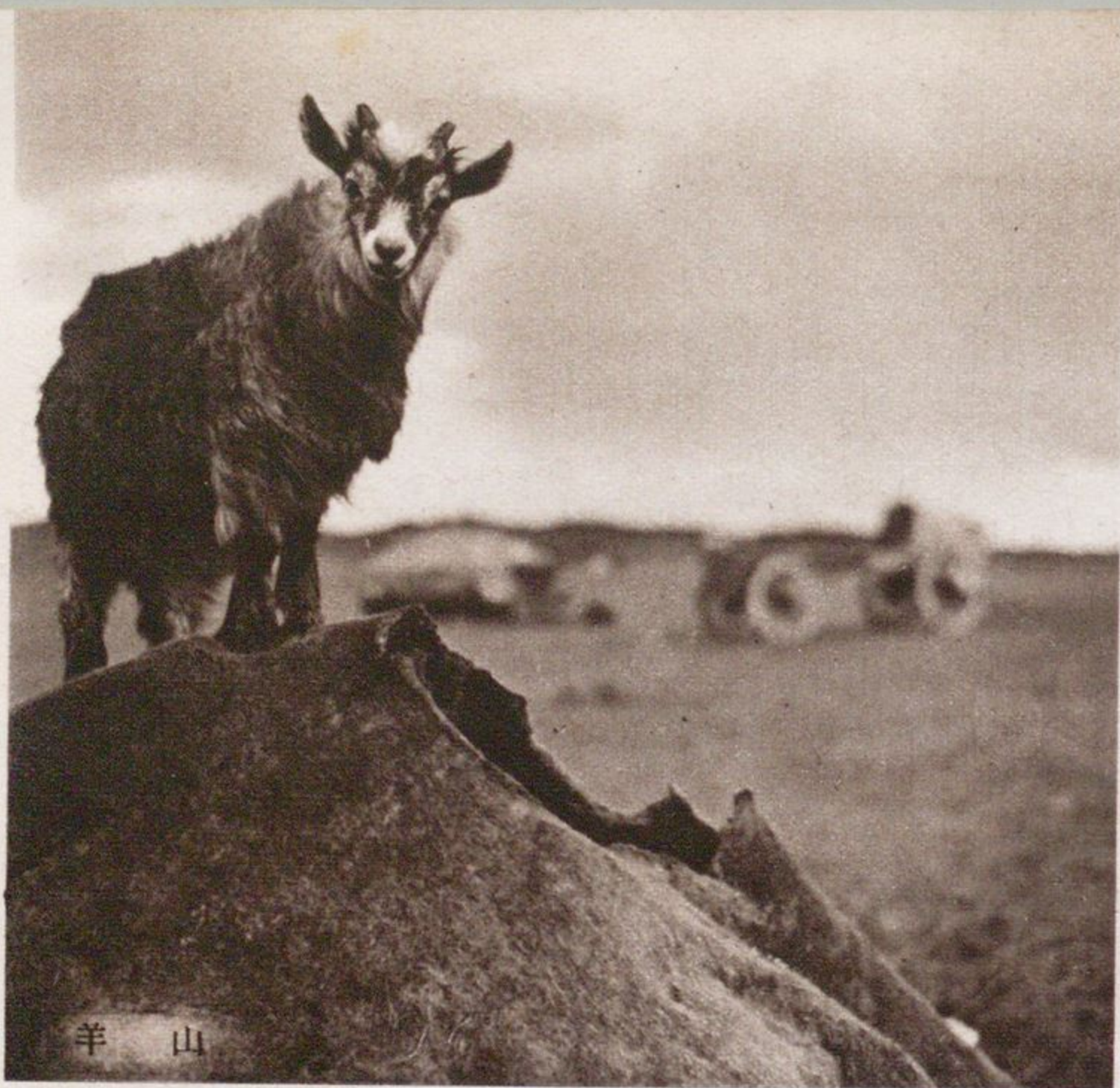
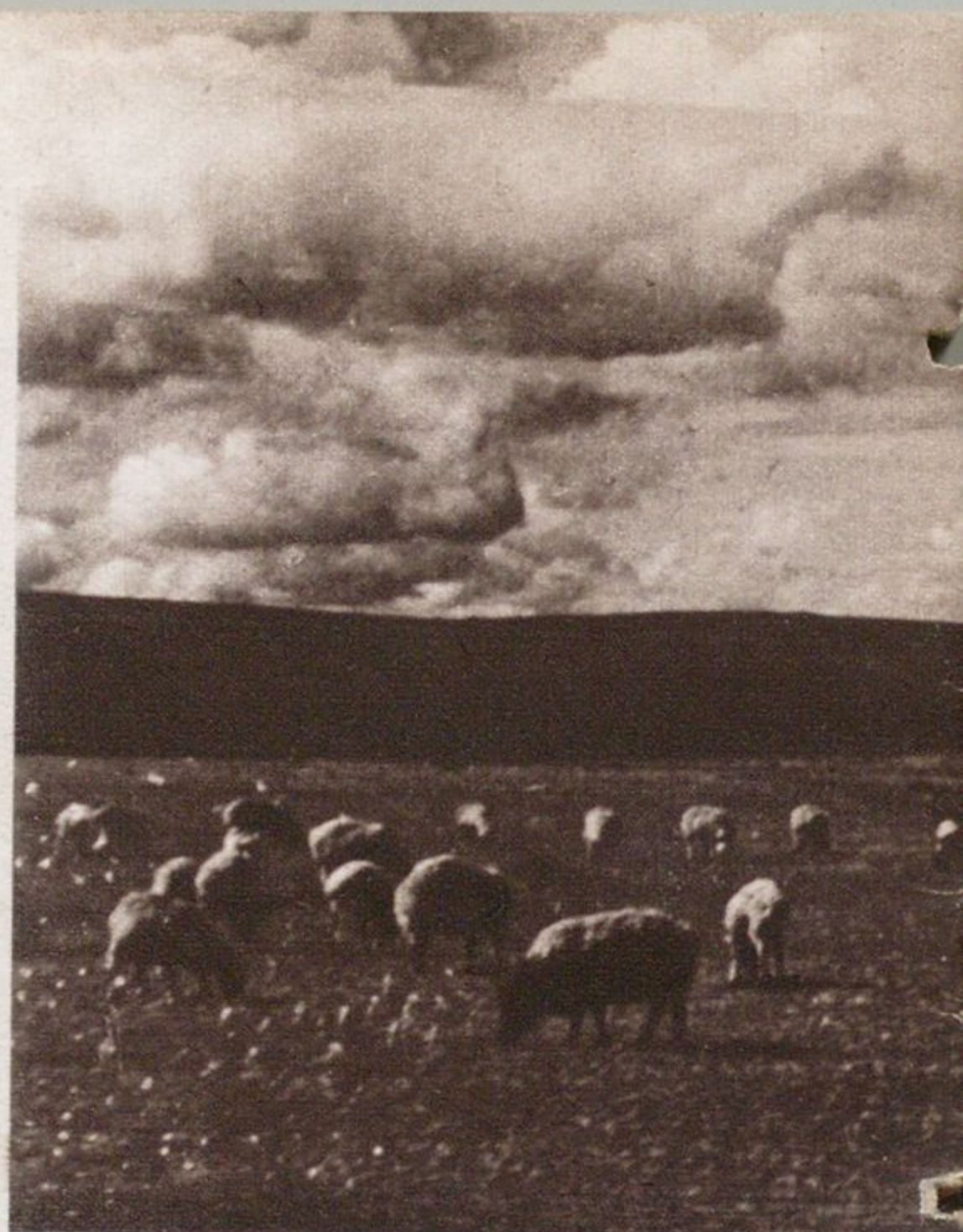
IN PASTURES OF INNER MONGLIA

羊の放牧

2 蒙古曠原の秋

大祭オボ祭が終る頃、蒙古の草原には秋風が立つ。陰山山脈のなだらかな起伏、日に焦けた牧童、流れるやうな羊の群、肥えた馬の肌、それらに爽やかな秋が訪れる
蒙古のやうに一年の中七ケ月も冬籠するところでは七、八、九、十の四ケ月は有難い季節である。夏のオボ祭に引續く秋の廟會、老若男女はとつてをきの晴着をまとひ、珠玉を飾つて草原の彼方此方から廟をめがけて集つて來る。牧草繁茂した砂丘のあちらこちらに高山植物のやうなかぼそい白い花が咲き、紫のねぢあやめ、モウコマツムシ草などが色鮮かに草原を彩る
蒙古高原の空氣は水晶のやうに明徹である。皓々と輝く月の下に誰のすさびか蕭々たる笛の音を聞く時、馬上琵琶を抱いて泣く泣く匈奴の王に嫁いだ王昭君が偲ばれる。唐詩選などに表はれた北方の詩の情感は、北京から居庸關を北に越えた塞外の地で初めて切實に感じられるのである

仔牛

山羊

馬を追ふ

羊皮の乾燥

羊皮製造

(その一)

THE PROCESS OF SHEEP-FUR MAKING 1

牛郎、織女の樂しき逢瀬、七夕祭が過ぎたら秋が來たのである。北京の前門大街、天橋、天津の估衣街の店頭に眞白な羊皮が幾十、幾百となくぶらりぶらりと吊下げられるのもこの季節からである

羊皮は蒙古人や支那人達にとつて大切な冬の防寒衣服材料で、蒙古地方では木綿地より羊皮の方が低廉であり且つ手に入り易いので、まづしいくらしの洋車夫や苦力までが支那服の裏付に使用したり、そのまゝ着用したりする。毛皮の產出しない吾國の人々には思ひもよらないことである

蒙疆からの一年間の生產高は、羊皮百萬枚、山羊皮三十萬枚、仔羊皮八十*

*萬枚と推算されてゐる

羊皮は市場で大皮、土皮の二種に分類されてゐる。大皮は蒙古人の飼育屠殺にかゝるもので、晩秋から初冬にかけて多く出廻る。羊皮の品質はよいが羊肉を賞味する關係上、刀痕の多いのを缺點とする。土皮は漢人移住者の手に依つて產出されるもので秋から冬にかけて多く出る。前者に比して羊毛が短く且つ纖維が太いので幾分品質が落ちる

各種羊皮のうちで最も優良品とされ尊重されるものに「鞣羊皮」「仔羊皮」がある。鞣毛皮にする羊は專らオルドスとアラシャン沙漠中間の寧夏に近い黃河沿岸から產出するものが最上である。羊毛は細く長く、無數の輪紋を描いてカールし、下生えは柔軟厚層をなしてゐるので被服などには頗る好適である。その重量、保溫程度、何れも狐皮に匹敵し價格は遙かに低廉である。仔羊皮は鞣羊皮ほど高價ではないが市場の寵兒である

これらの毛皮の用途はそれぞれの特徵によつて區分されてゐる。山羊皮は主として巡警、兵士等の外套となり、羊皮は低廉な上つぱりとして貧民階級が愛用する。又鞣羊皮、仔羊皮等は專ら中產階級の防寒具として用ひられてゐる

蒙古人の毛皮鞣法は酸乳をもつて自ら鞣し自家用に供するのが普通であるが料金を拂ひ支那人の鞣業者に托して*

水につけて鞣す

THE PROCESS OF SHEEP-FUR MAKING 2

鞣した上、板に張つて燥す

羊皮製造（その二）

出來上つた毛皮

梳いた毛皮を衣類の形に縫ふ

再び水に入れてブラシで梳く

*製造させることも多く行はれてゐる卽ち著名な喇嘛廟所在地には蒙古貿易商人が駐在し、その中に料金を徵して專ら蒙古人の羊毛皮を製鞣してゐる支那皮革業者がゐるのである。製造方法の主なるものに二つある。一つは原料皮を醱酵した酸乳中に浸す方法で成羊皮は七、八日、仔羊皮は三、四日で出來上る。氣溫の低い夏季以外の時期にはこれより稍多くの日數を要する。他の一つは散麪子麵と食鹽に水を加へ泥狀としたものを肉面に塗り、之を三四日天日に晒し、塗抹物を洗ひ落して
燥し、裏すきするものである。この
方法の外に酸乳と散麪子麵を混合し
使用することもある

これら蒙古人を相手に皮を鞣すこと
業とする支那店舗を皮莊と呼ぶ。製
料は仔羊皮十五錢から二十錢、成羊
は二十錢から三十五錢位である
戰線の被服材料として羊皮の需要が
加してゐる今日、蒙疆における皮革
業の發達は同地方の羊毛と共に大い
期待される

北支の水運（その一）

京山線に沿ふ運河

WATER TRANSPORTATION IN NORTH CHINA 1

支那の文化は治水文化と謂はれ、凡て灌漑水運と關係し、宗教、政治、經濟等悉く治水を離れて考へることが出來ない。支那に於ては古來水路が國内の交通並に物資の運搬の中樞をなしてをり、就中流程三千五百浬、七十五萬平方哩の流域を占むる揚子江を中心とせる中南支の水運は其の地の發展の根源をなした。しかし黄河流域とも見るべき北支は、中南支と事情を異にする

黄河は北支那の大河で、其の流程約二千七百浬、流域五十萬方哩、約一億三千萬の人口を抱擁し、北支の大部分を潤してゐるが、害は寧ろ利に優り「萬里の黄河單に寧夏包頭を利するのみ」とか、「黄河千里の富は此の一套にあり」とか、或は又 "China's Great Sorrow" 等の言葉がある。南船北馬の語も亦、南北の地理環境の相違を一言に要約するものであるが、然かも尙ほ黄河の上流區域は白河、大運河と共に北支交通に重要な地位を占めてゐる

黄河航運の範圍は甘肅省靖遠縣から黄河河口に至る五千支里中、府谷縣より禹門口に至る間を除いては大部分水運の便を有し、中にも中衞より綏遠の河口鎭に至る二、三百支里間の舟運が比較的大で、小蒸汽船の航行も不可能でない。中衞上流は急湍で小舟・筏が小區間を限つて安全の程度だが、西寧から下る皮筏子は著名である。北支における水運の中心をなすのは河北省で、河北省の河流系統は、白河と本支流の關係を有するものと、直接渤海灣に注ぐものとに分けることが出來る。後者は北塘河以東の灤河其の他二三の小河を數へるのみであるが、前者の主なるものは、北運河、南運河（御河）、子牙河、德水河、永定河等である。これ等の水路は北支經濟の中樞都市天津を中心として殆ど放射形をなして流出し、各地に毛細管的に分流し、距離の遠隔を問はず物資輸送の大動脈をなしてゐる

船を曳く苦力

北支の水運（その二）

京漢線新鄉附近の衞河

白河は其の最下流たる三岔河口から太沽口に至る區間を海河と稱し、白河主要部分をなし、北支を世界海運貿易と結ぶ重要な動脈の一つに當る。更に白河は蘆臺運河によつて蘆臺に、西は清水河によつて保定に、西南は子牙河によつて正定に通じ、北は北運河によつて通州に、南は南運河を利用して江蘇に出で、更に衞河により遠く河南に達する

大運河は天津から杭州に達する大約一千浬の運河である。各區間によつて種種な名稱があつて天津以北を北運河、以南を南運河と稱して山東を流れ江蘇省に入り江蘇運河と呼び、鎭江を經て杭州に達する。大運河の開鑿は西紀六世紀春秋時代の吳の刊溝に始まり一二八三年完成した。元・明・清の間、南方の米を北京に輸送せんために用ひられ、當時の漕運は旺盛を極めた。一八七四年汽船會社招商局の設立あつて以後、航運は海運によることゝなり運河の利用も漸減、河道の修理も怠られ臨淸以南黃河に至る舟運は杜絕し、一部耕地に變じた處もある。しかし其の他の部分は今尙重要な水路である

かくして水路は北支に於ても運輸交通上重要な役割を果してをり、支那の鐵道發展上にあつては、其の無計畫性から鐵道と水運との競爭は愈[illegible]激烈を極

白河——天津

津浦線良王莊附近の運河

め、綜合經濟の上から面白からざる結果を招致した。然るに先に設立せられた華北交通會社が、北支の內國水運をも兼營することゝなり、從來の摩擦を排除し合理的運營が可能となつた

黄土の家 1

支那人が黄色を貴ぶのと黄土との間に關係があるかどうかは判らぬが、支那の歴史も文明も黄土を母胎とし舞臺として發達したことは事實である。黄土地帶は西北諸省、つまり山西全省、陜西、甘肅、河南の大部分、さらに寧夏、蒙疆、河北の一部分を占め、十二萬平方哩に亙つてゐる。それは、巨大な篩にかけたやうな微細な黄色の泥の堆積である。中央アジアの乾燥地から季節風によつて、文字通り萬丈の黄塵となつて吹き寄せられたものだといふ。これが西北一帶を塗りつぶしてしまつたのであつて、厚い處では三百呎にも達する。この間を縫ふ大黄河の流は一石水而六斗泥となり、一年間に百七十五億立方呎といふ桁外れの黄土を下流一帶に押流し、所謂中原の豐沃な大平野を造つた。それと同時に、沈澱する黄土のために、河底が平地よりも遙かに高いといふ特異な河となり、四千年來の治水の癌となつたのである △

黄土層は、殆ど垂直に突立つて屢々數十呎の斷崖となり、これが壘を積重ねたやうな段層をなして獨得の地形を呈する。土質は軟く、表面はセメントのやうに固くなるので、掘るのは容易でしかも壁や天井がボロ〱崩れ落ちることはない。住民はこれを利用して黄土の洞穴に住居を構へるのである。南向きの斷崖に入口を開き、戸口や窓枠をつけてゐる。內部は普通の家のやうに、一方に通路をとり部屋は二間なり三間に區切られてゐる。また、扉には福壽などの吉祥文字の紅紙が貼つてあり、穴居といつてもさすがに狐や狸の穴とは違ふ。洞穴の中は夏涼しく冬は暖かく、また家族が殖えると、土をくり抜きさへすれば、いくらでも擴張できるし、柱一本要らぬといふ調法至極な家である。之等の住家の上は大抵廣い畑になつてゐて高粱や小麥が茂つてゐる。その畑の處々から、底抜きの甕を伏せて造つた煙突が出てゐて、細々と煙を吐いてゐる

山西地方の黄土層

黄土の家 2

近代文化を遠く離れた山里の穴居部落を訪れると、原始に返つた思ひがして、洋服を纏ひカメラをぶら下げた自分の姿が却つて時代離れしたものに見えたりする。入口の戸障子は黒く垢じみてゐる、洞内には人ツ氣もないやうだがやがてヒョロ〳〵と宛も大地から湧いて出たやうに、子供たちが飛出してくる。陽受けのいゝ前庭で土いぢりしてゐる彼等の口から

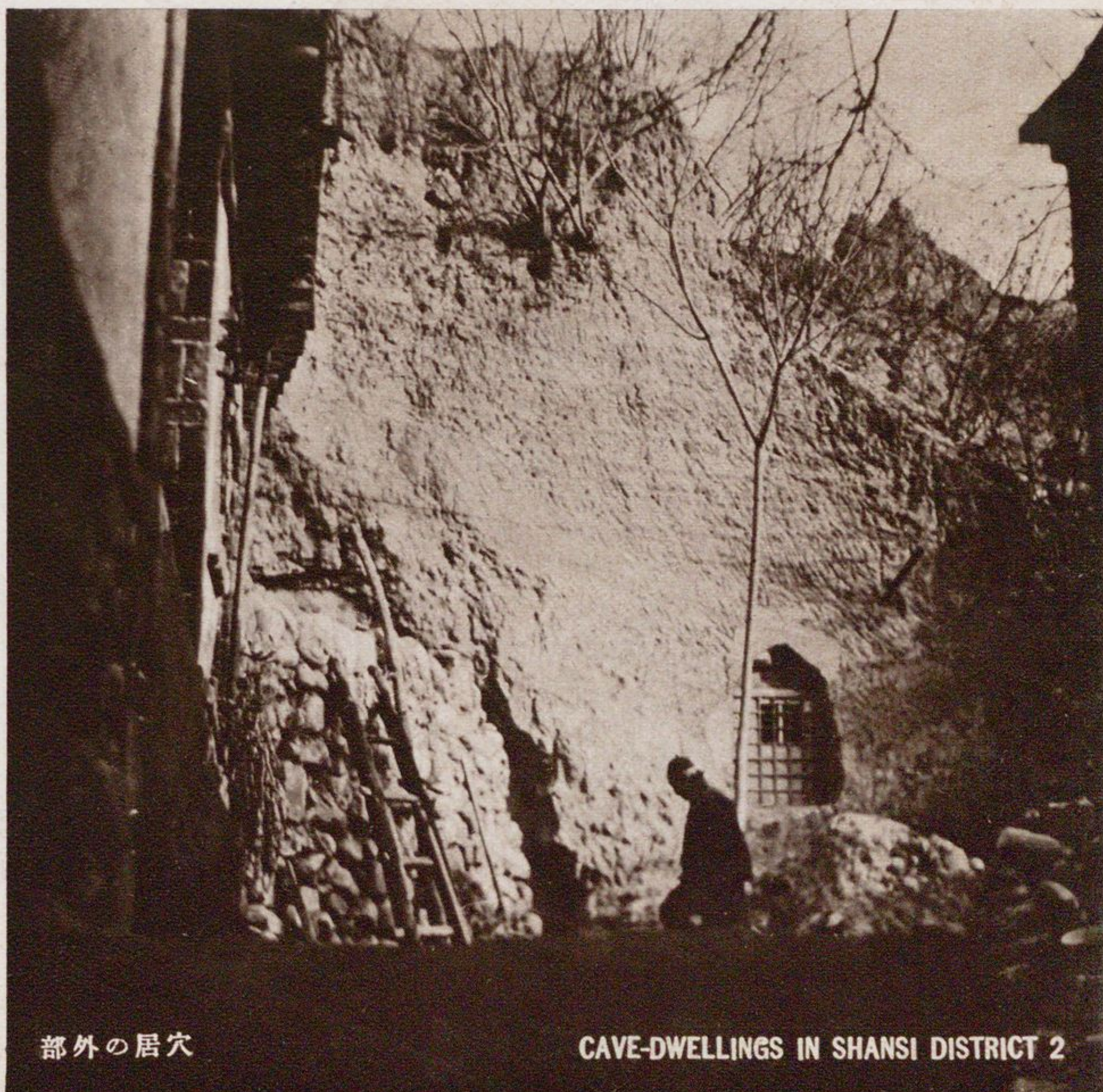
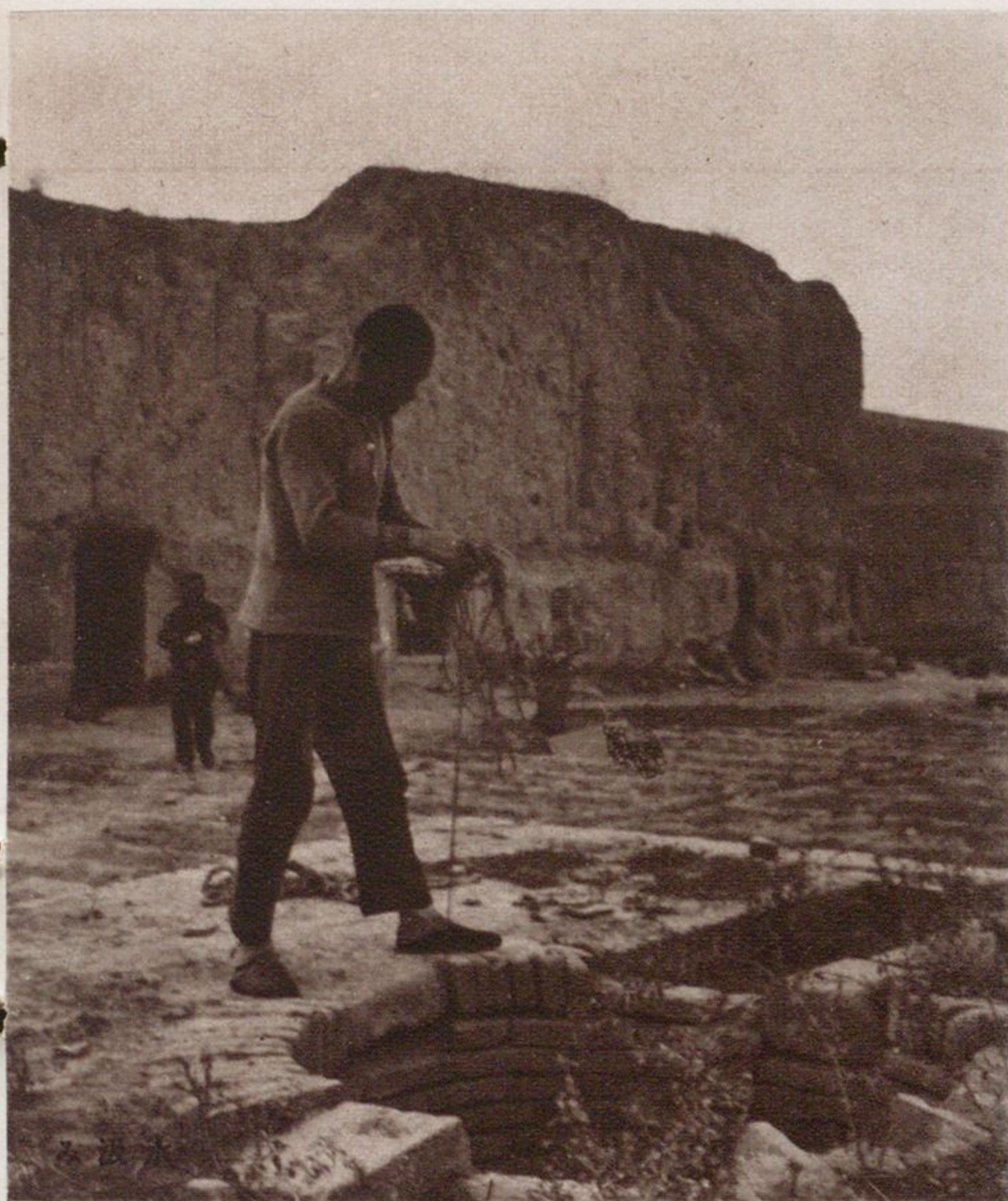
僕のお家はよいお家
泥でつくつた家だけど
雨ももらぬし隙間から
冷たい風もはいらない

毎朝ねどこで聞いてると
蹄の音がカッポ　カポ
僕の父さん馬車屋さん
降つても照つても町へゆく

こんな唄が聞えさうな長閑な素朴な情景に充ちてゐる

水汲み

何時の頃から、かうした生活を續けてゐるのか、有巣氏は穴居の害を説いて家を造ることを敎へたといふから、恐らく神話時代に遡らねばなるまい。山西省の汾河流域は堯舜の地であり、陝西省の渭水の谷は支那文明の搖籃地とされてゐる。さらに、その西の蘭州や狄道には一層古い文化の跡が見られるといふ。漢人種は、之等黄土の渓谷を傳つて中央アジアから支那大陸に移住し、既に早くこの地方に生活してゐた苗族その他の文化を吸收しつゝ、渭水から黄河に沿つて、中原に出たものであらう。そして黄土の土に、肥沃な耕地を開いて農業の民となり、支那文化の溫床を築いたのである

穴居の外部

CAVE-DWELLINGS IN SHANSI DISTRICT 2

土房の入口（上流階級）

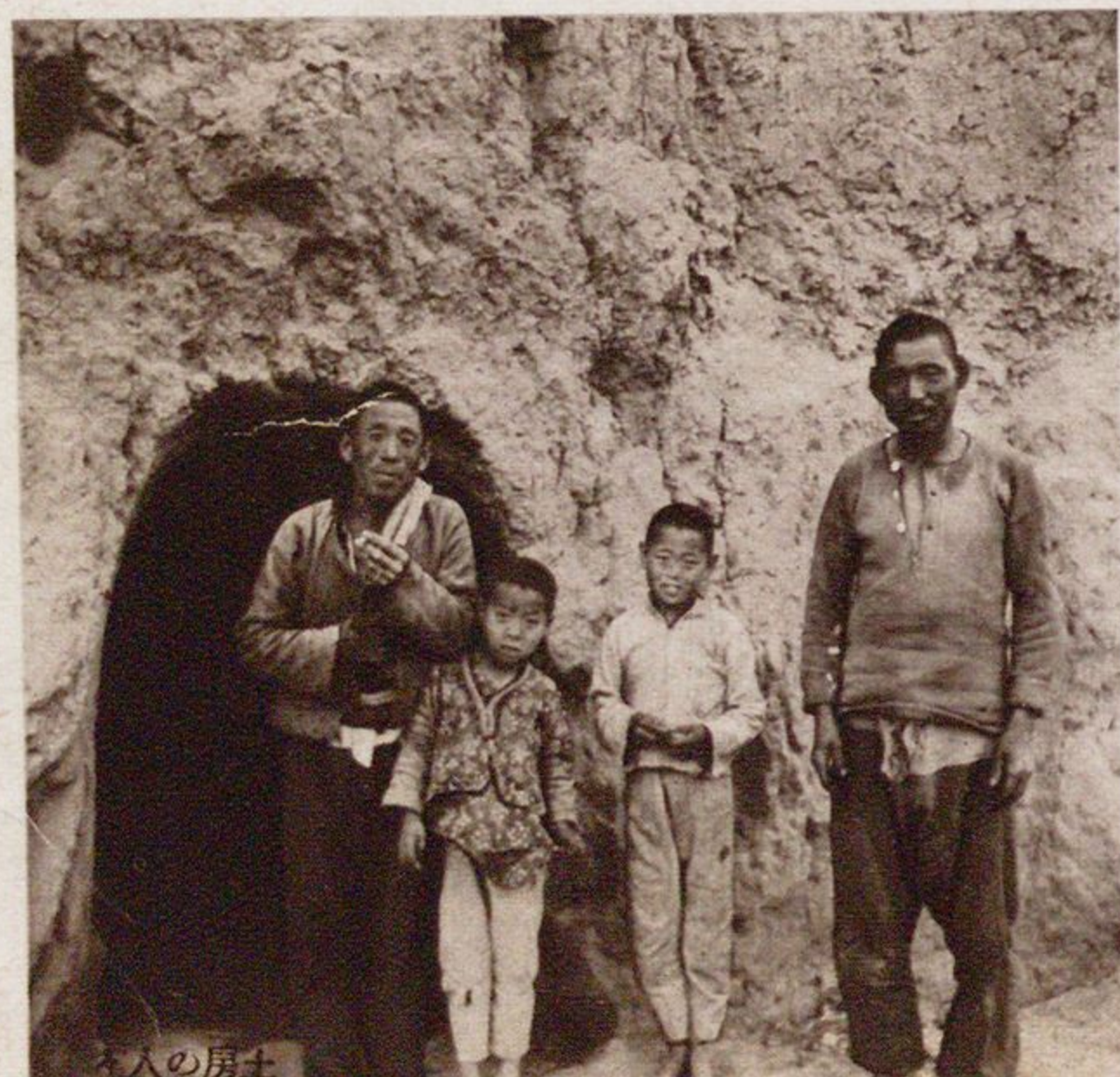
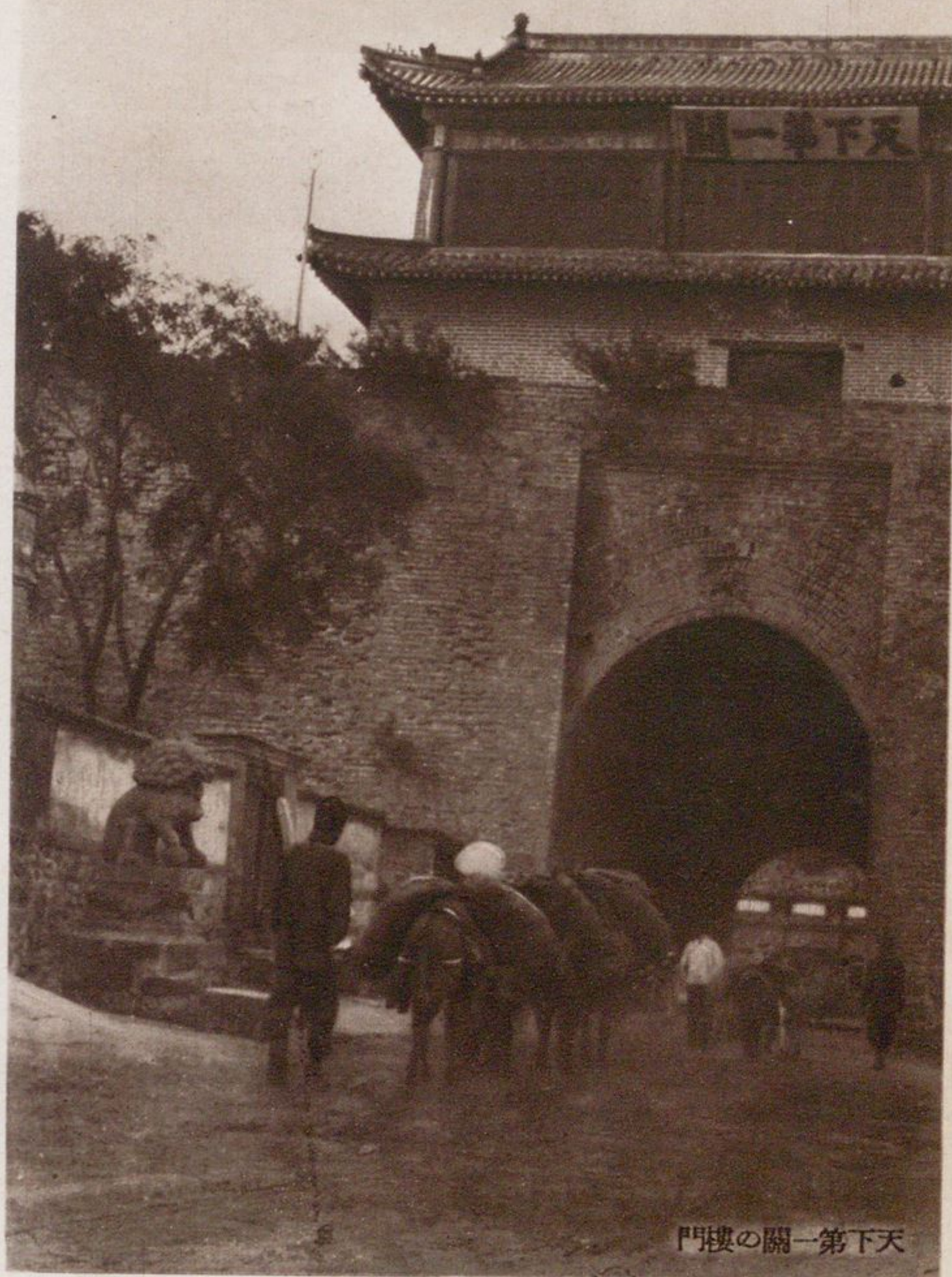
一家の團欒

土房の入口（下層階級）

土房のなか

土房の入口

針しごと

山海關

天下第一關の樓門

山海關はその文字の如く、前に渤海をひかへ後に峨々たる高山を負ひ、しかも東北に長城を擁した山海の關で、西方張家口に對應する軍事上の要地とされてゐる。古來北方の者が南下するとき必ずこの關を越えた。近くは張作霖もこゝを越えて中原に號令してゐる。

昭和八年一月一日の山海關事變は我國民の周知するところである。今では月月數千の日本人がこの關門を越えて大陸に入る

現在の關城は明初の築造に係るもので城門の樓上に「天下第一關」の美事な扁額が懸つてゐる。明の蕭顯の筆といはれ一字の大きさは一坪位のものである

この城門の上に登ると、疊々たる山又山を縫ひ蜿々長蛇の如く走る萬里の長城を眺めることが出來る

近郊には楡關八景と呼ばれる勝地がある。海拔千餘尺の深山、仙境にある棲霞寺或ひは玄陽洞の石佛寺など、いづれも楡關八景の一つで夙に世に知られてゐる

また關城の北郊に、雜草に埋れたさゝやかな孟姜女の祠がある

孟姜女は二千餘年前、長城造築に追ひ使はれ、關外の露と消えた夫の後を慕ひ、雲山萬里、江蘇の松江よりはるばると山海關を訪れ夫の靈を弔ひ、始皇帝の面前でその暴政をのゝしりながら自殺を遂げた可憐薄命の貞婦であつた。戲曲「萬里の長城」や幾多の民謠に潤色せられ、夥しく後代子女の涙をしぼつてゐる。山海關を汽車で過ぎる人々の目にまざまざ殘る長城の破壁は孟姜女の涙の瀧津瀨に壞された跡だと傳へられる

SHAN-HAI-KWAN, THE BARRIER BETWEEN MANCHUKUO & NORTH CHINA

長城の遠望

秋の蟲

秋の夜長を鳴通すと云ふ蟲をあはれと思ふことの人情に變りはない。音樂好きの中國人、特に好事の北京人が飼蟲に凝るのも道理である。田舍の聲を取入れて都會の秋を深うする巷の風流。郊外の百姓爺さんが隱居仕事に手製の蟲籠と孫達が捕へたらしい蟈蟈を天秤に擔いで賣りに來る。蟋蟀は喧嘩用に供するのと鳴聲を樂しむのと二種あるが道具は何れも念の入つたものだ。どんぼ賣りは子供相手の商賣で葭の葉を少し手籠に用意して適宜の路傍で開店する。秋らしい街の景物に違ひない。おほかた一四二、三錢から、蟈々は籠共十錢、二十錢。賭博に使はれる蟋蟀には十圓、二十圓と云ふ法外なのがある。こんなところにも支那らしい風情が見えて面白いと思ふ

INSECT-DEALERS, PEKING

街頭の虫うり

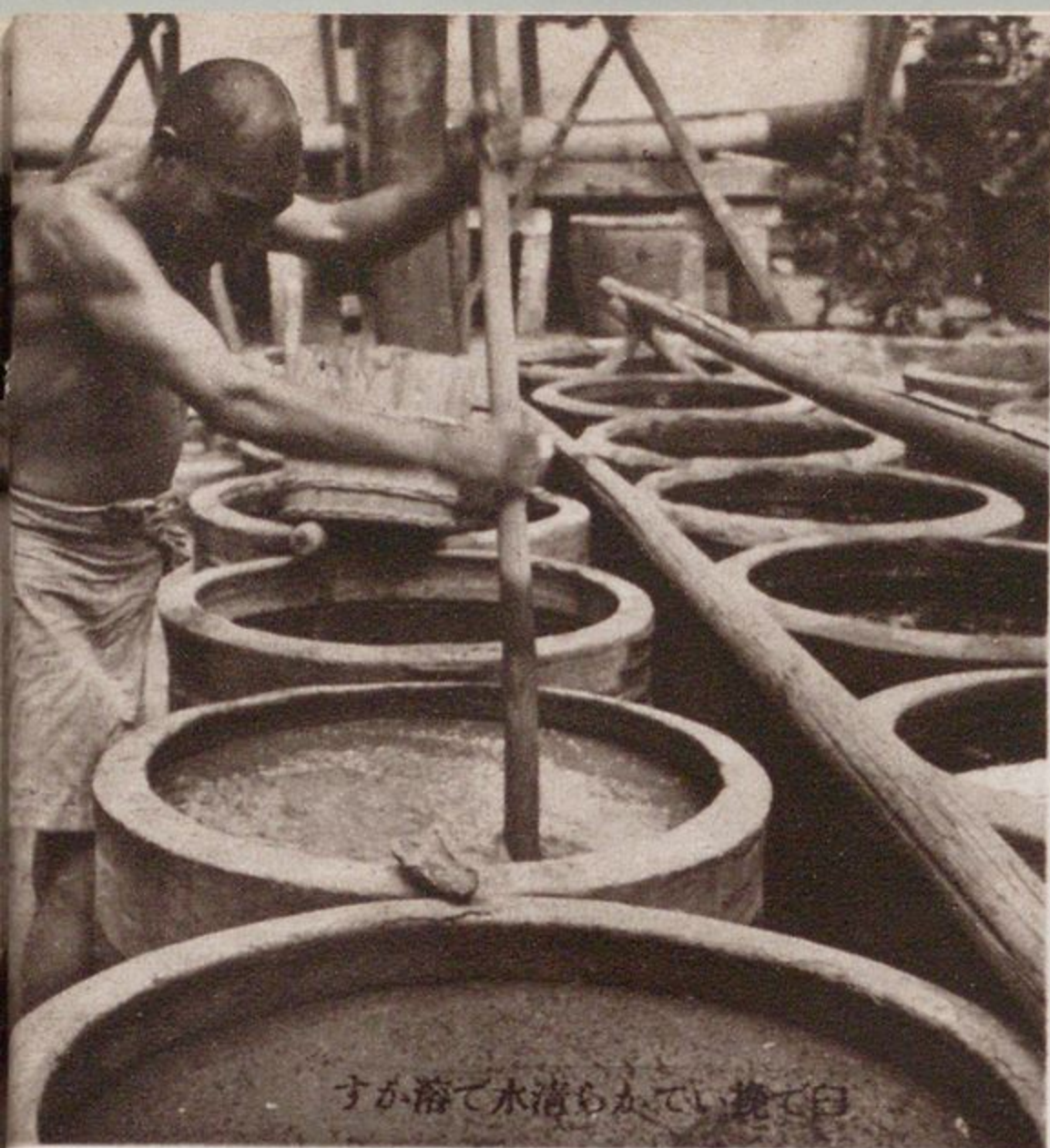
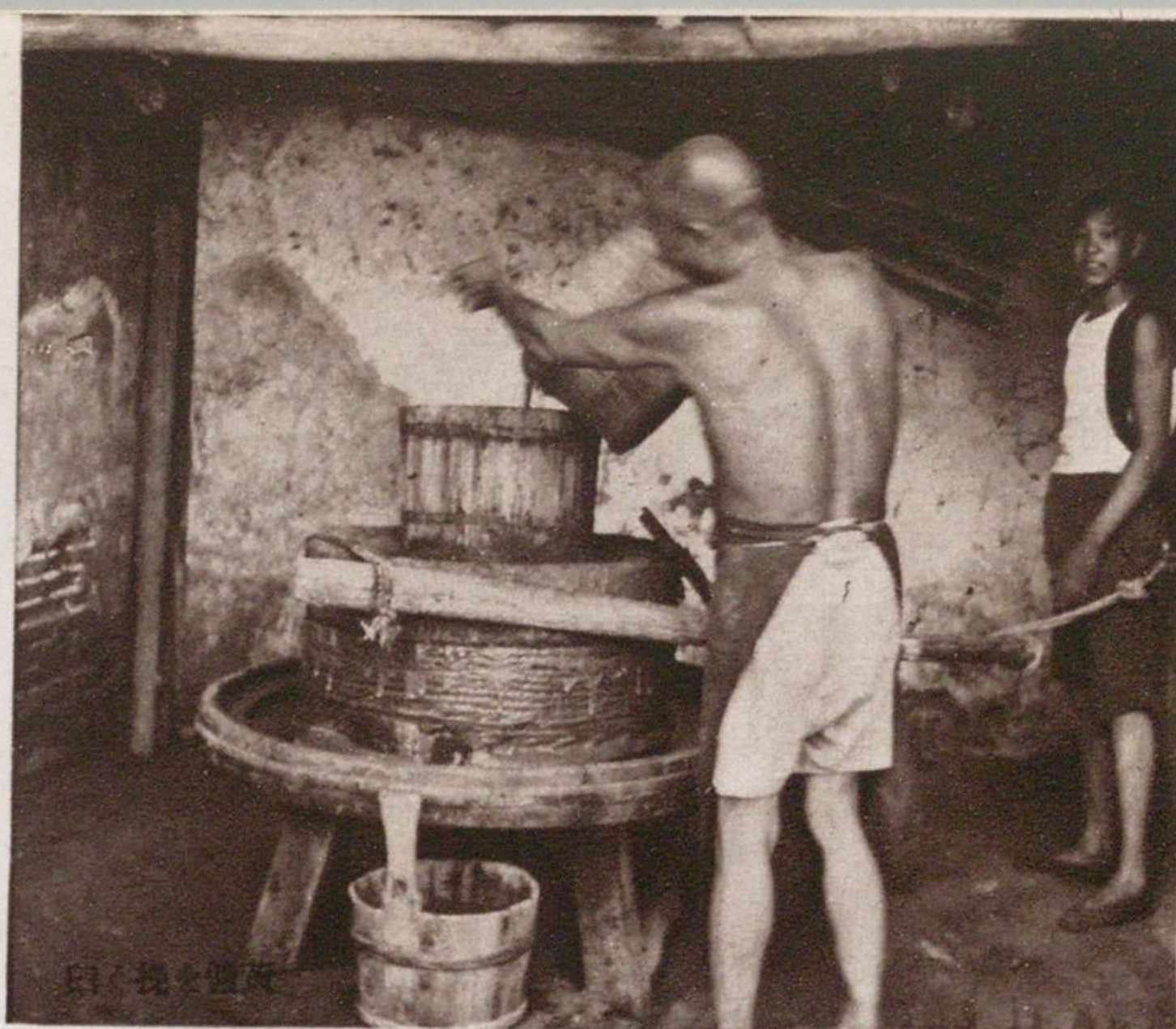
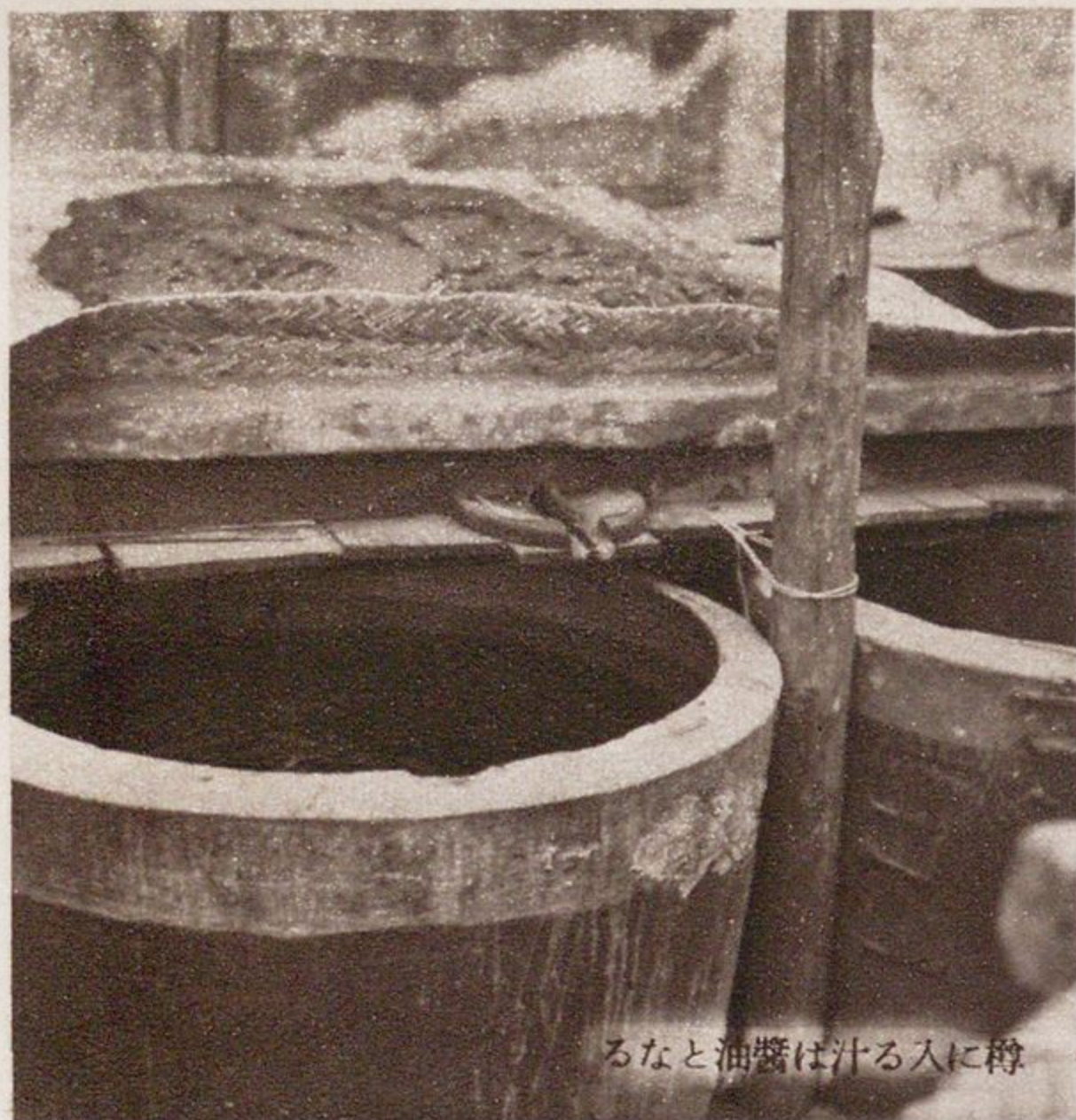
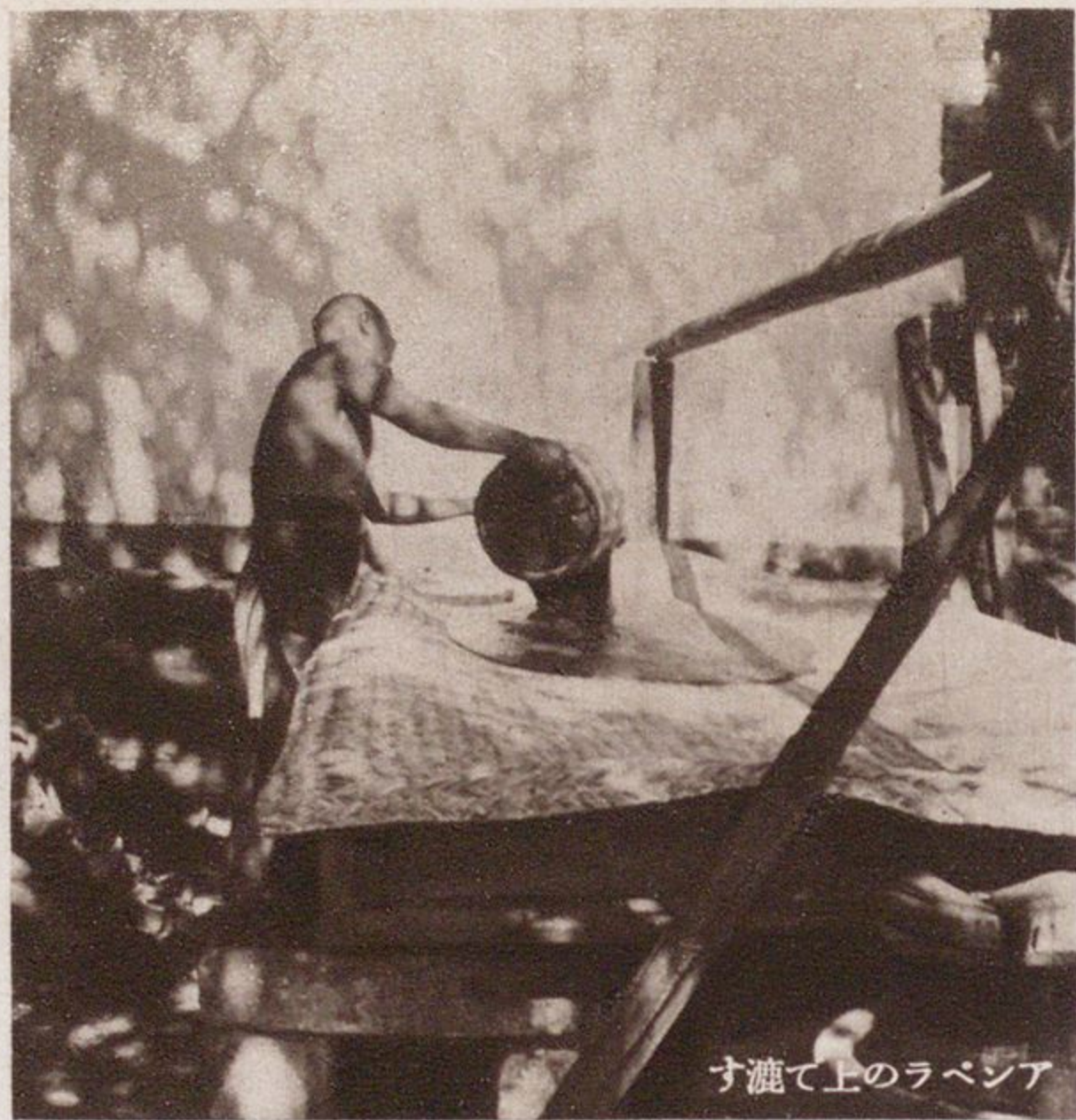
虫壺と虫籠

とんぼ

臼で挽いてから清水で溶かす

大豆を挽く臼

醤油の秤賣り

樽に入る汁は醬油となる

アンペラの上で漉す

支那醬油

醬油と味噌、これは隨分古くから使用されてゐる調味料である。我が國固有の調味料としては、神代の昔、既に飴や鹽があり、後には酒や酢が出來、更に三韓、支那との交通が開けるに及んで味噌、醬油などが傳承せられた。その始が何時の頃か明かにすることは出來ないが、大寶令によると、宮中の大膳職の一部に醬院の設があり、この醬院には、高倍神を醬油の神として奉祀してあつたといふ

支那は日本に醬油の製法を傳へた本家であるが、現在の支那醬油は味も産額も日本醬油に比すべくもない。日本の千葉、兵庫等では數百の職工を使用して化學的な製法を行つてゐるのに對し、支那醬油は純然たる家内工業の域を脱してゐない。北京で最も大きいといはれてゐる醬油釀造工廠でも工人は十人前後、製麴室の設備がない。中流の醬油工廠は工人が二、三人で、芝麻油（胡麻油）の製造が主となつて、醬油、味噌は寧ろ従である。乾物一切の小賣を兼ねたり、野菜類の小賣を兼ねたりするのが一般の例になつてゐる

支那醬油は日本と異つて日方で量る。大抵の醬油がビール瓶につめられてゐるが、そのビール瓶がどれもこれも日本のアサヒビールやキリンビールの瓶であるのも愉快だ。市價一斤八錢乃至五、六十錢位

支那醬油が餘り發達しない原因の一つは需要の方面からも來てゐる。支那の調味料の重要な部分は芝麻油や花生油（落花生油）に占められてゐて、大抵の煮ものは油と鹽で作られる。農村にはいると、味噌の方は稀に自家製を使ふ場合もあるが、醬油は全く使はないと云つてよい

その味は酸味を帶びた上に、頗る鹹いので一流の支那料理屋はみな日本醬油を使つてゐて「龜甲萬」など大いにもてゝゐるやうである。普通の支那家庭では茶碗や小瓶をもつて一兩二兩（一斤は十六兩）の小買ひをして勘定も銅子兒（銅子兒一枚は一錢の四分の一弱、近來次第に姿を消してゐる）で行はれてゐる

はりこの醬油壺

VISITING ON A SOY FACTORY, PEKING

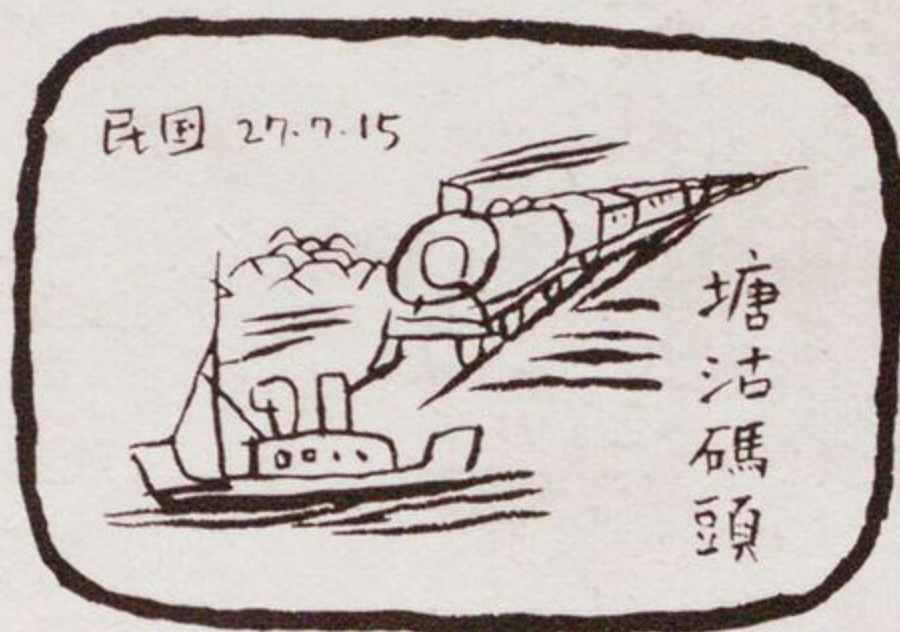
北支スタンプ

ところどころ

東亞新秩序建設運動の大旆は今や全支を風靡しております。事變の戰塵はまだ納まらないのですが、北支は既に政治・經濟・產業・文化その他あらゆる面に着々と建設の巨歩を進めてゐるのです。北支交通の動脈を掌る華北交通會社、ここにその各驛スタンプの一部を拾つてみました。それぞれ地方色豐かなもので、旅行者の思出を端的に記念するよい助けになりませう

SELLECTION OF TRAVELLER'S MEMORIAL-MARKS ALONG NORTH CHINA R. LINES

蘆溝橋—支那事變の導火線となつたところ。橋の袂に琉璃瓦の碑亭あり、北京八景の一

太原—海拔二千六百呎の高原にあり、正太線の終點。圖は省公署の門

大同站—雲崗の石佛を以て世界に知らる。一帶は北支有數の炭區である。圖は石佛の圖案

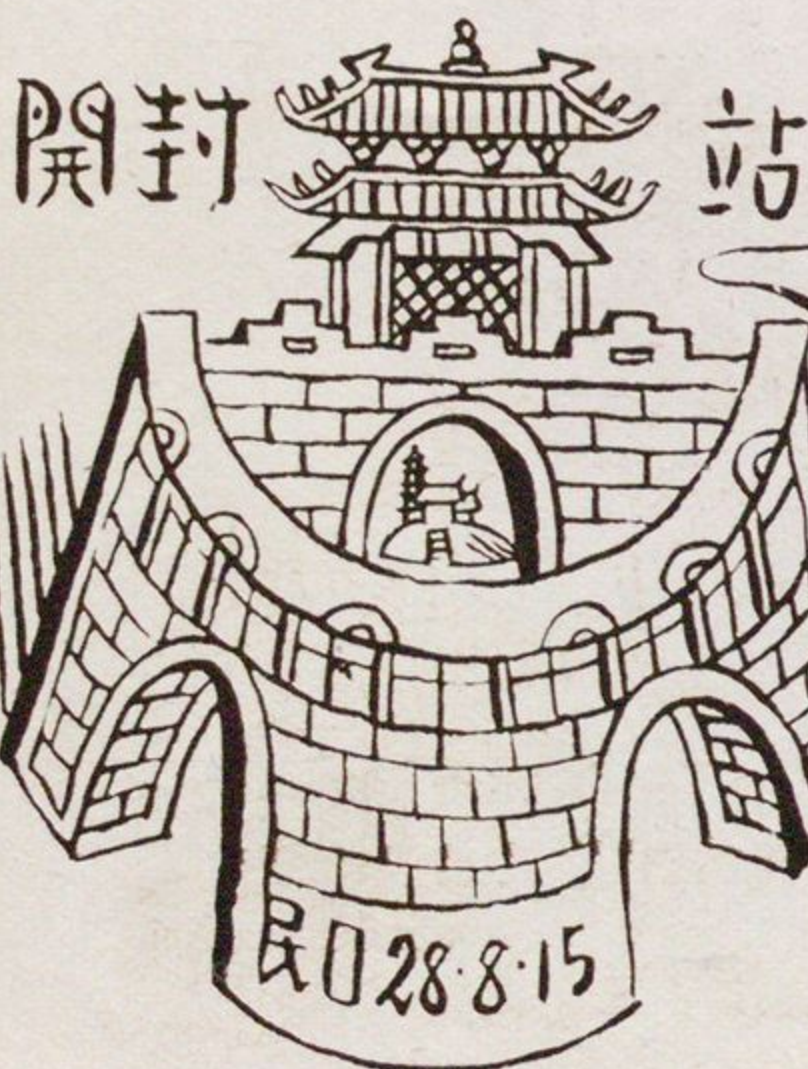
塘沽—京山線・天津航路の船車連絡地點。附近は長蘆鹽の產地として知らる

津浦線—南北支那を繋ぐ政治軍事上の重要線。沿線より滿洲出稼苦力百萬を出す。圖は南京孝陵の石像と天津埠頭

井陘—正太線・井陘炭坑は日支合辦、年產額七九五・二四八瓩。圖はカンテラに塔風景

石家莊―京漢線・井陘への咽喉に當り正太線の分岐點。驛の北に大石橋あり、圖はそれ

北京―新生北支の首都、人口百六十萬、邦人五萬。圖は北海の白鷺に龍を配したもの

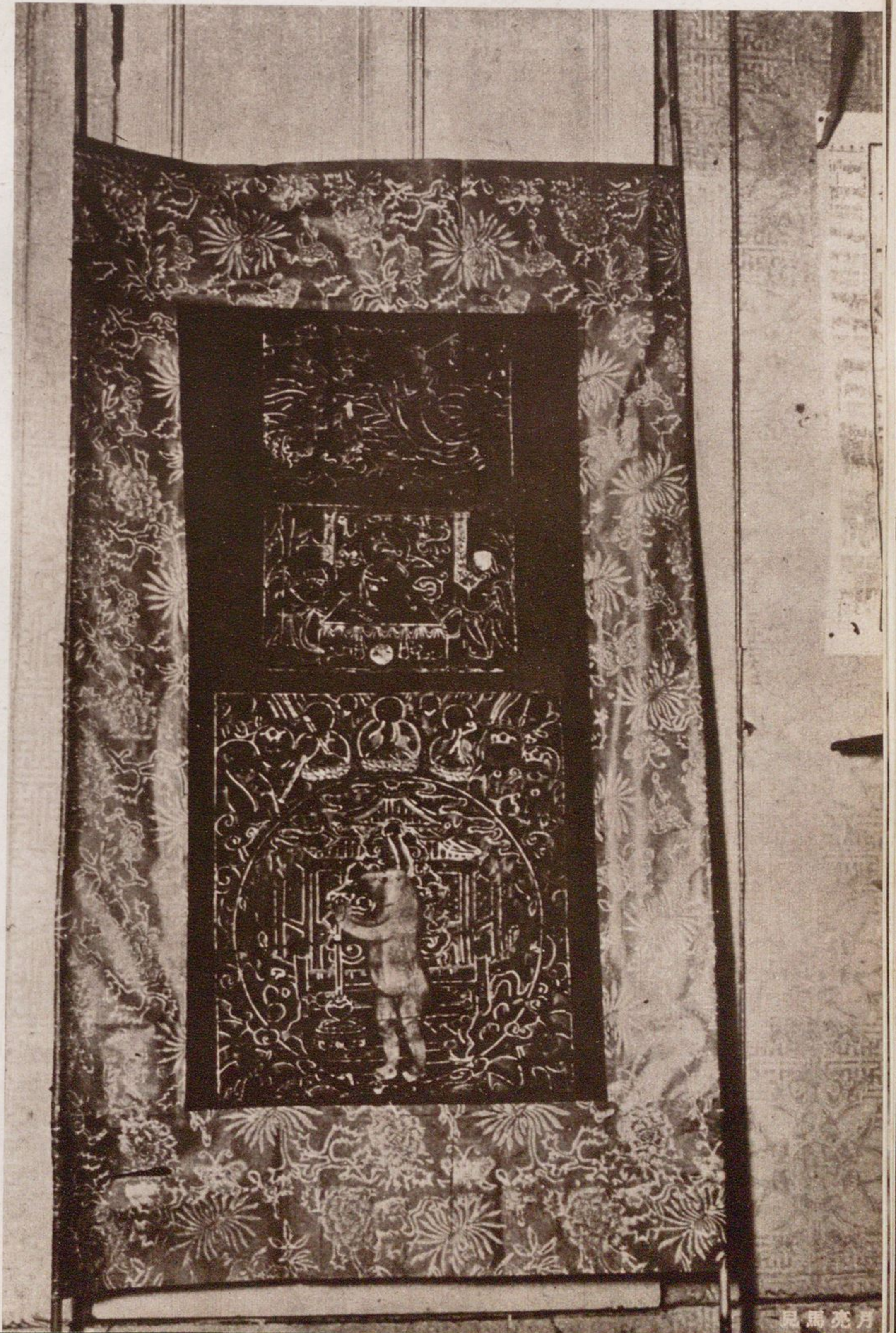
易縣―京漢線・この邊史蹟に富む。易水の源は西山の谷より出る。圖はその風景を描く

張家口―內外蒙古交通商業の要地。蒙古語でカルガンと云ふ。圖は交通機關となる駱駝

天津―驛は市の心臓部にある。何處からみても水陸交通貿易の要衝だ。圖は萬國橋など

厚和―京包線・綏遠と歸化城を合併せるもの。羊毛皮の集産地、圖は城内の五塔招

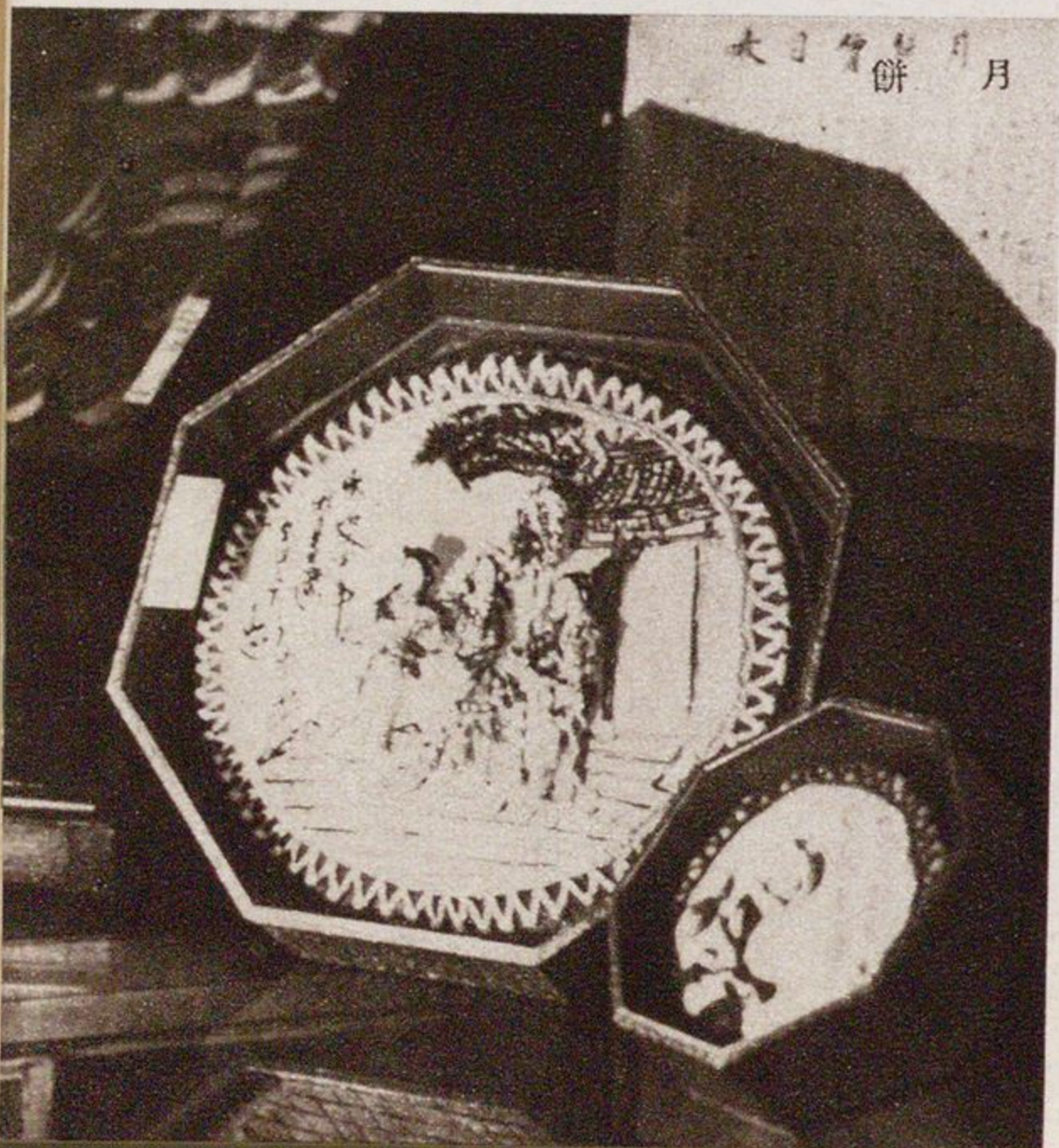
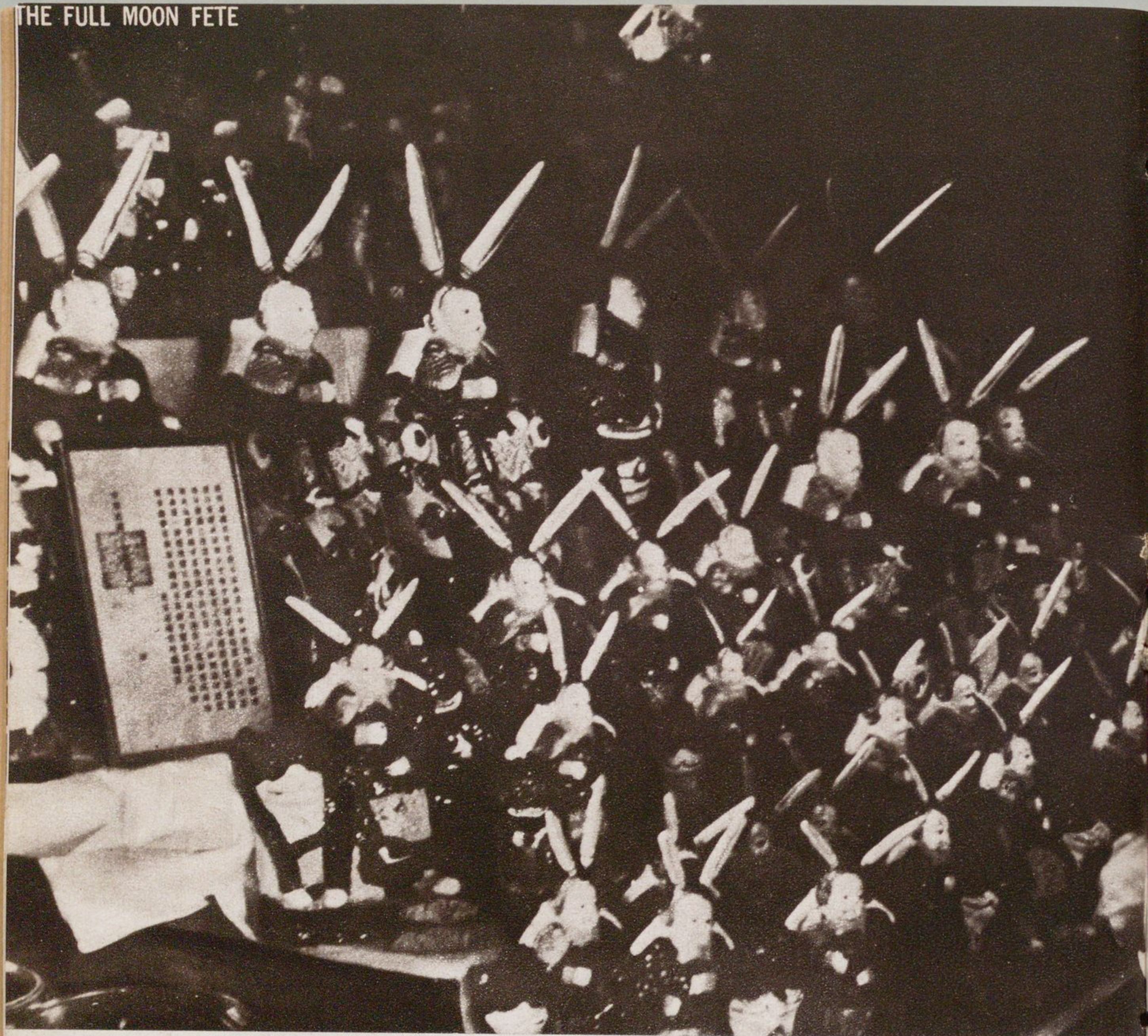
西直門―京包線・北京城西北隅にあり、萬壽山への出口である

開封―隴海線・徐州より二七七粁、城廓堅固な古都。圖は甕城と龍亭

支那の
仲秋節

兎兒爺

三伏を過ぎて日増に空が澄渡る。吹く風の清涼さに銀河の影冴えて秋酣なる時分、紫紺の空に月滿ちて仲秋が來る。八月十三日から十五日迄（今年は新曆九月二十五日から二十七日迄）を仲秋節として北京人は月を祭り月見の宴を張るならはしである。十五夜になると家々祭壇を設へ月亮馬兒（ユエリャンマール）を飾つて供物をする。（月亮馬兒は寫眞のやうに上に太

月亮馬兒

THE FULL MOON FETE

陰星君又は玉皇大帝、風雲雷雨、菩薩諸神の像を描き、下に兎のゐる月宮を描いた刷紙でこれを高粱稈の枠に貼つた至極手輕な神樣）卓上の供物に線香、蠟燭、月餅（果物や砂糖で作つた餡入の菓子で、クリスマスケーキに似た豪華なのもある）それに酒、果物、紙錢など

婦女子は團圓餅と云つて蒸團子を供へて禮拜する。但し男子は拜まぬので男不拜月と云ふ言葉があるけれども最近は自由になつてゐるやうだ

明月中天にかかる場合、拜月の禮がすんだら月亮馬兒を焚いて供物を下げ、さて一家團欒して月見の宴をひらくのである。この日家族の者互に祝うて林檎（特に團圓果と云ふ）を食ふ

尙仲秋節前になると街頭あちこちに兎兒爺と云ふ粘土作り極彩色の玩具を賣出す。兎は武神となつて金の杵を持ち麒麟や虎に跨つて勇ましい。日本ならば五月節句人形に匹敵する見事なものだ

序乍ら、仲秋節は三大節季（五月五日、大晦日と共に）の一で決算日になつてゐるから商店などでは難關である

扮裝——未來の梅蘭花

俳優を養成する

戲曲學校

こちらの部屋では胡弓に合せて聲高に唱つてゐるかと思ふと、彼方では棒片を振廻し、一方では花旦の纏足を著けてヨチヨチ歩いてゐる。廣庭では役柄を振當てて一場面の稽古をつけてゐるここは戲曲學校の內部です

芝居道華やかな北京の役者達は何處から出て來るか？その八分通りはこんな科班即ち子供役者養成所から出ます。現在北京には三つの科班（富連成・戲曲學校・榮春社、この他三つ程あるも論ずるに足らず）があつて、中で一番歷史の古いのは富連成の光緒三十四年創立。現在活躍してゐる一流どころの役者は殆どここの出身です

戲曲學校は民國十九年の創立で富連成と並稱される橫綱格とも云ふべきところ、富連成のやり方が舊式なのと對蹠的に進步的な教育をやつてゐて、立派な寄宿舍を設け、劇場への生徒の送り迎へには專門バスを使ふと云ふハイカラさです。現在の校長は四大名旦の一人程硯秋。他に副校長一人、分教務約三十人、事務五人、生徒數男女合せて一七五人。樂劇、音樂、話劇の三科を設け、市社會局教育部の管下にあつて制度學則整然と進めてゐるのは立派です

一般に科班の入所手續は面倒で、一人の子供を入れるには契約書を納める、これには家長の外に二人の有力な保證人が要る。それも一定の様式があつて、子供の乳名、年齡、その他細々した誓約を書込む。修業年限は普通六年。在所中は衣服、飲食その他すべて社の負擔で授業料は要らぬ。その代り市中劇場上演の際の收益は經營者側の收入になると云ふわけで、儲けながら勉强すると云ふ仕組です。よく街の劇場で入場料を安くして見せますが普通役者の芝居より一所懸命なところがあつて氣持のよいものです

さて入所してからの教育規律も嚴格且つ猛練習で鍛へるので、決して他目のやうに樂なものではない。生徒も貧家の者、又は孤兒、役者の子弟などで粗衣粗食、猛訓練にも堪え得る者ばかり、入所した生徒はその向き向きによつて訓練を受ける。年齡は大體八、九歲から十二、三歲迄で卒業するのは十八、九歲になります（中）

武技稽古

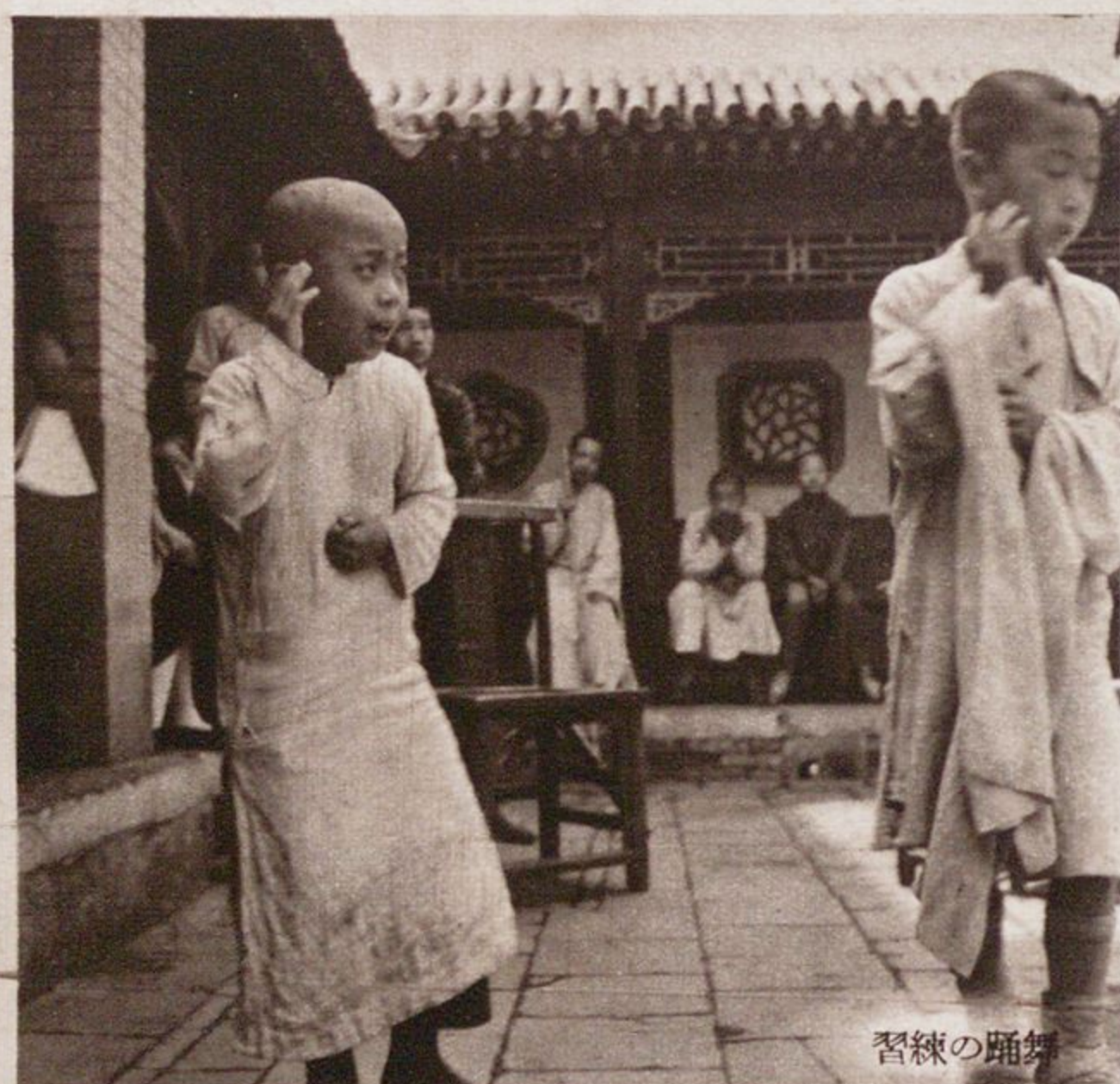
纏足の練習

舞臺下の稽古

舞踊の練習

音樂科

泥河と化した日本租界メンストリート

舟、車、避難民などでごつた返してゐる支那街大通り

大きな歴史・小さな歴史

NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA I

▽大陸の雨は物凄い。日本でも梅雨時には所々に水害を被ることがあるが、支那には大きな河がいくつもあり、土地も廣大なだけに、その被害もまた大きい。特に今年は數十年ぶりの大雨で、北支、蒙疆は近來にない水禍に遭遇、隨所に鐵道は線路を奪はれ、橋梁は押し流された。この難に當つて我が皇軍勇士と鐵道從業員は連日連夜、濁流と酷暑に抗して、交通の復舊、難民の救濟、物資の供給に挺身建鬪し、中國大衆を感激させた。沿線の鐵道愛護村民も〃我れ等の鐵道を守れ〃とばかり率先、身を以て鐵道復舊に馳せ參じ、鶴嘴をふるひ、ショベルをとつて勇ましく立ち働いた

▽北京でも七月二十五日の晩から降り出した車軸を流すやうな雨が大街といはず、胡同といはず、濁水を漲らせて市民を惱ました

▽特に八十年ぶりの大洪水だといはれる天津は遂に八月二十日市中に浸水、未曾有の惨狀を呈した。我が皇軍部隊は建設總署、市公署などと協力し、防水工事、救助作業に涙ぐましい努力を續けた

タラヒで安全地帶に向ふ婦女

ツクにボートを積んで救助に向ふ鐵道從事員

途方にくれる難民たち

大きな歴史 小さな歴史 2

北支那開發會社總裁**大谷尊由氏**は蒙疆旅行の途次大雨による京包線故障のため雨と洪水との中を歩いて病を獲、八月一日張家口の客舍に逝いた。その北京での告別式は八月五日故宮太廟で嚴肅に執り行はれ、軍官民多數參列、新秩序建設に身を捧げた故人の靈を弔つた——寫眞は四月十七日華北交通會社創立式に於いて祝詞を讀まれる故人

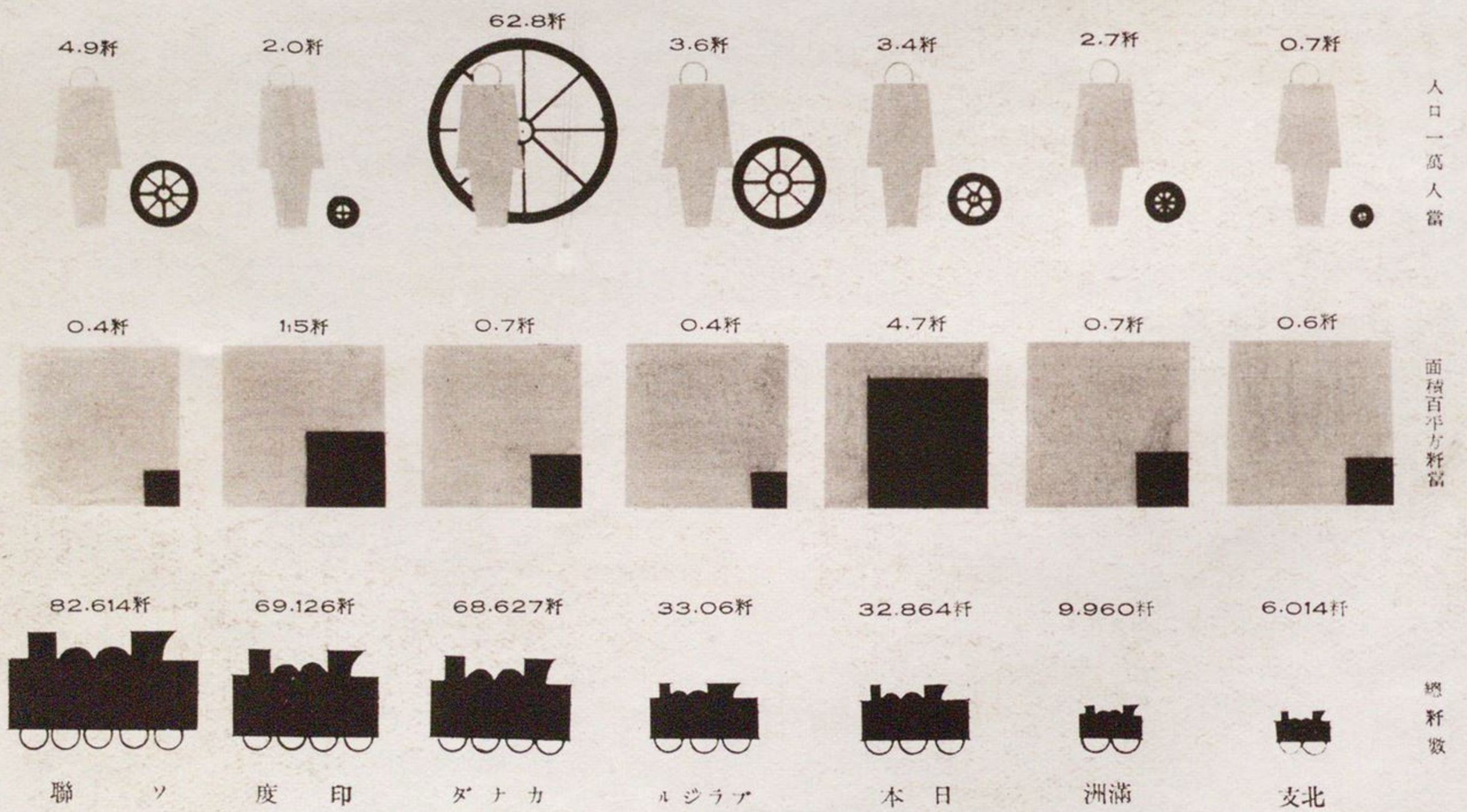
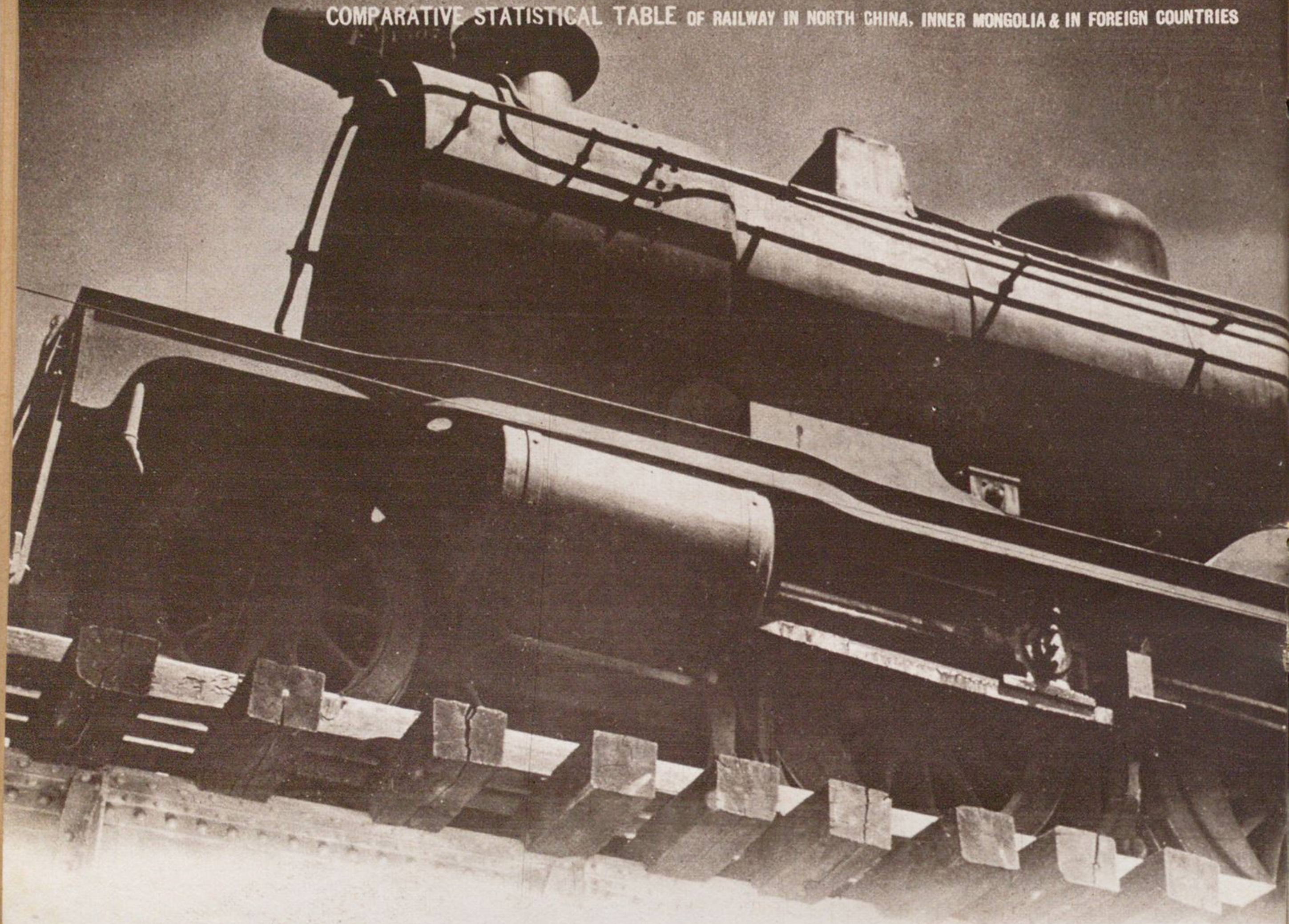
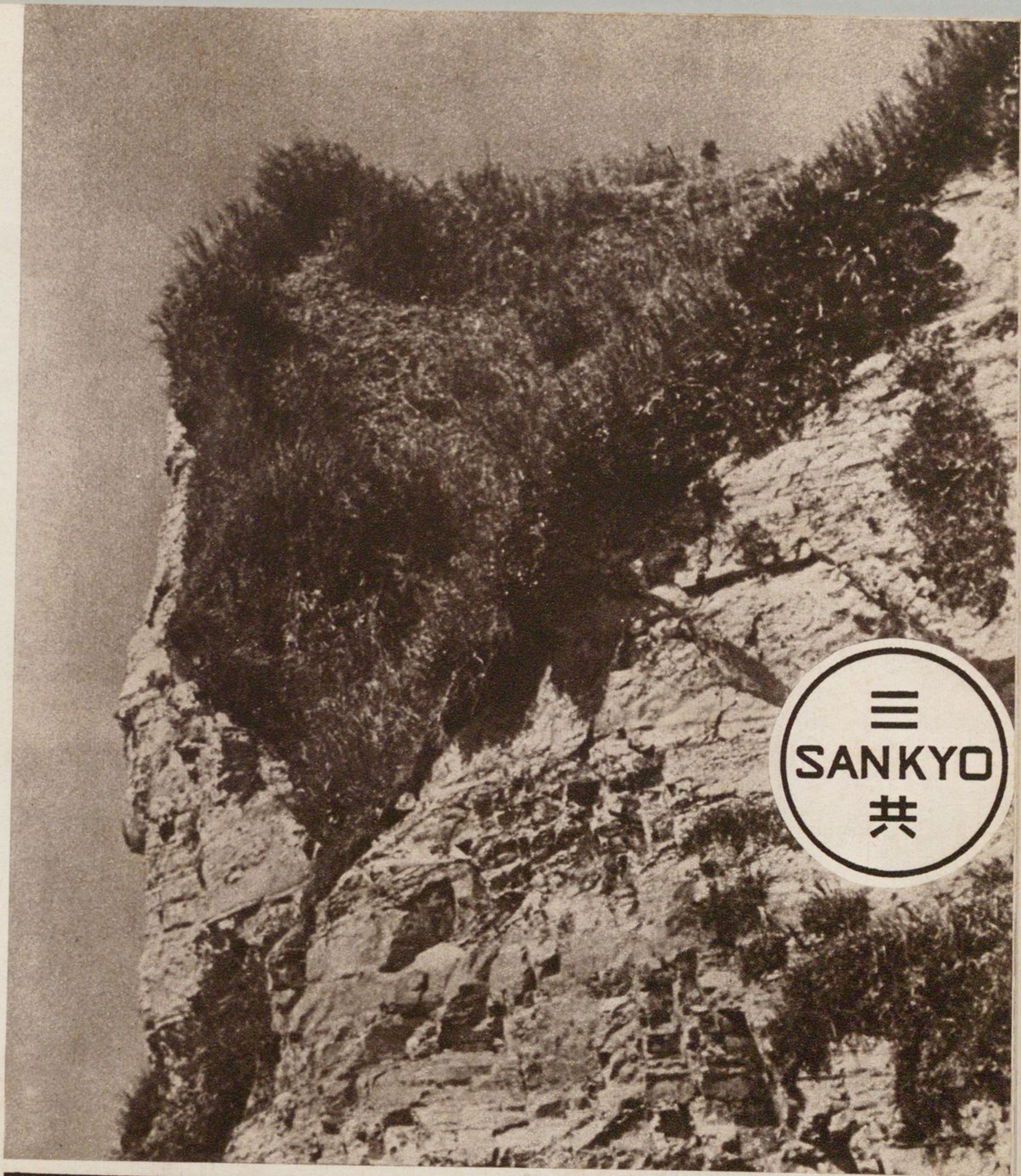
NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA 2

東京會談の雲行きを反映して〃擊攘英國〃の聲は全大陸に燃えひろがり、在留邦人、中國民衆の間に各地で抗英の氣勢が擧げられた

城門に貼り出された打倒英國

張り廻らされた反英標語

北支蒙疆鐵道と外國鐵道との比較表

COMPARATIVE STATISTICAL TABLE OF RAILWAY IN NORTH CHINA, INNER MONGOLIA & IN FOREIGN COUNTRIES

	ソ聯	印度	カナダ	ブラジル	日本	滿洲	北支
人口一萬人當	4.9粁	2.0粁	62.8粁	3.6粁	3.4粁	2.7粁	0.7粁
面積百平方粁當	0.4粁	1.5粁	0.7粁	0.4粁	4.7粁	0.7粁	0.6粁
總粁數	82.614粁	69.126粁	68.627粁	33.06粁	32.864粁	9.960粁	6.014粁

三
SANKYO
共

北京アルバ人村

中平亮

北京城の眞東北隅に高い壁に繞らされた廣大な一廓がある。それは東單牌樓の大通りを北に行き詰め、東四北大街の終端を右に曲つた東直門大街、その中程の東直門北小街を行き詰めて右に折れたところ。城廓のやうな宏壯な壁を繞らしたその中には十字架を戴いた丸屋根が中空に聳えてゐる。これがアルバジン村である。

この邊りは古代北京の面影をそのまま傳へてゐる迷宮であり、今でもなほ夜になると、夜番が、拍子木を叩きながら、九時を報ずる場合には、「仕事の時間が終りました。皆さんお休みなさい。明りをお消しなさい」と觸れ歩き、十二時になると「皆さんお眠みですか、夜番は起きてゐます、安心してお休みなさい」三時から四時の間には「夜が明けかけました、陽の出ないうちにお起きなさい」と呼び歩いてゐるとのことである。

いよいよ夜が明けはなれて、六時になると、禮拜を告ぐる鐘は、朝の靜寂を破つて、アルバジン村の高塔から附近一帶に響き渡る、と、善男善女の群は朝の禮拜に集つて來る。

いつたいアルバジン村とは何か。ロシヤ正教會の極東總本山である。その寺領として指定された敷地總面積は、十八町歩を超ゆる廣大なもので、恐らく北京に於ける外人權益最古のものであり、土地そのものに就いていふならば、最大のものと云へるであらう。と同時にこれは清朝が外國と戰つた最初の、而も唯一の輝やかしい戰勝を紀念するものなのである。

*

十七世紀の中葉、ロシヤはその極東侵略に當つて東部シベリア各地にオストログと呼ばれる小寨を建設した。そのうちの一つとして現黑龍州雅克薩に築かれたものに、アルバジン城があつた。康熙帝は現地住民の訴へに接して一六六八年、軍隊を派遣し、この城寨を圍んで露人を掃蕩したが、六年の後、棟領(アタマーン)チエルニゴウスキイに率ゐられたコサツクは再びこの地は現はれ、此處を本據としてイグナシンスキイ、モナスツイルシチンスキイ、オーゼルヌイなどの各地に支配の手を延ぶるばかりでなく、土着住民に對して誅求益々苛酷を加へた。そこで康熙は再び總兵の一萬の大軍を討伐に差向けた。ロシヤ側は僅か四百五十の小勢であり乍ら、食糧、彈藥の續く限り防ぎ戰つたのであるが、終に矢刀共に折れ盡し、一六八五年、六月二十六日、城下の誓をたて、投降者の大部分(約三百人)が捕虜といふよりは、寧ろ康熙帝の招請に應じ、親衞隊を組織する約束の下に、僧正マクシームに率ゐられて北京に到來した。

この時、アルバジン守將トルブジンは、ネルチンスクに去つたのであつたが、支那兵が撤去すると同時に又してもアルバジンに歸來し、城寨を修築して再び經略の歩を進めたため、支那軍は三度これを包圍した。コサツク守備兵は饑餓を物ともせず頑强に死守したのであるが、結局、一六八九年(卽ち二百五十年前)のネルチンスク條約によつて問題は全面的に解決を見、アルバジン城は、徹底的に廢毀され始めて東北部露支國境が明確に規劃された。

*

僧正マクシームに率ゐられて北京に到來したコサツク達は、既にその前、

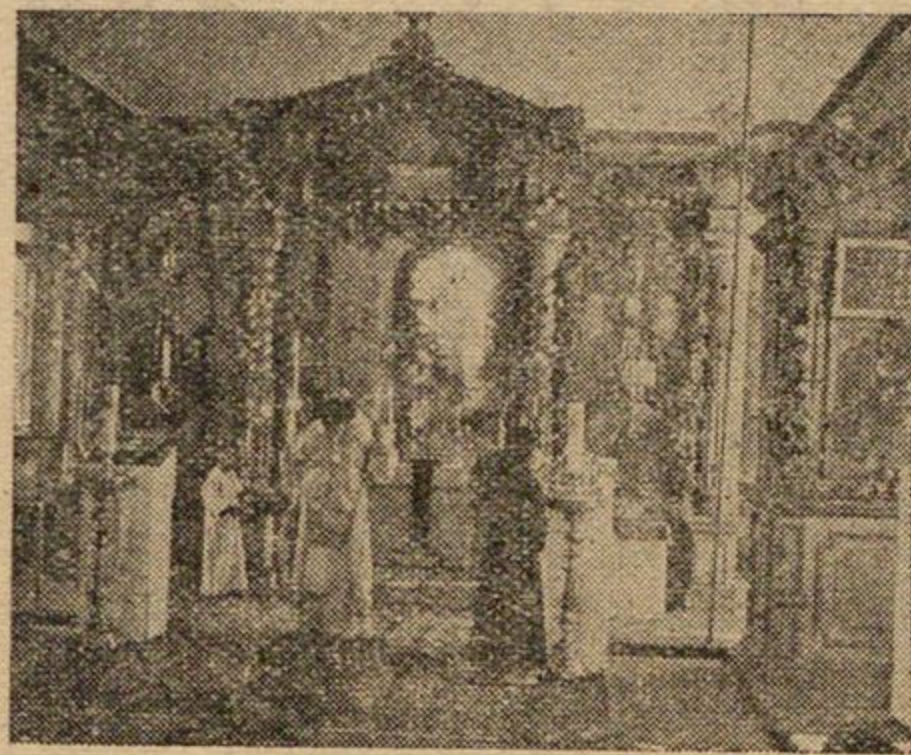
內容

幾度かの戰爭で捕虜となり北京に拉致されてゐた同胞に迎へられた。そこで彼等は相會して、滿洲軍黄旗の一部隊としての親衞ロシヤ人部隊を組織し、扶持、住宅の支給を受くるばかりでなく、耕地もまた指定されることになつた。この土地が卽ちロシヤ東正教會附屬地として、壁に繞らされてゐる一廓である。そこには當時、蒙古人の一廟宇があつたが彼等はこれを改造して、さゝやかながらも禮拜堂を設置した——これが現在のロシヤ寺院の濫觴である。

一七一一年、僧正マクシームが逝くと、トボリスクの大僧正ヨアンは親友レジヤイスキイをマクシームの後任として北京に派遣したところ、北京朝廷はこれを許可したのであつた。これによつて、北京に於けるロシヤ教會の存在は事實上公認されたものといふことが出來るが、更に十六年後（一七二七年）の恰克圖條約によつて、ロシヤは北京に布教團を派遣し、教會堂を設置することを公式に認められた。それより一八六四年北京にロシヤ公使が派遣さるゝ迄、卽ち一世紀以上に亙つてこの聖教使館（ヅホーウナヤ・ミツシヤ）——一名北館（ペイコワン）といひ一般ロシヤ人は勿論、教會自身この呼稱を用ゐてゐる——は、たゞに布教を司るばかりでなく、外交使節としての役務を代行し、これに關聯して外交顧問數名が派遣され、同時に布教員と協力して支那事情調査研究に當ることゝなつた。つまり、この布教院に附屬して、支那事情研究所が設置されたわけである。

＊

この布教院は爾來僧侶であると同時に、寧ろ支那研究家として有名である數名の院長を世に送つてゐる。そのうち、最も令名を謳はれてゐるのはヨアキング・ビチユーリンである。彼は一八〇七年より同二二年に至るまで右傳道院々長を勤めたのであるが、その間に、中央亞細亞（主として新疆地方）諸民族に着目し、得意の支那語の知識を利用して、漢書、魏書などといふ難解の支那古代史書を渉獵し、前人未踏の境域に分け進んだ。

勿論、奴何、哈哥斯、キルギス、タタール、サルト其の他諸民族の研究はヨーロツパに於ても古くから行はれてゐたのであるが、その準據するところは、ギリシヤ、ローマ、アラビアの文獻であり、斷片的なものであるばかりでなく、誤謬に滿ち滿ちたものをそのまゝ受容れてゐたのである。が、彼は古代からこれらの民族と直接の交渉をもつた支那自身の記錄を蒐集、整理することにより、前人の誤謬を訂正し、或は新資料を提供するなど、歴史的、種族學的暗黑面に劃期的照明を投げたのであつた。

なほ最近の人物として特筆すべき者に、上下二卷に亙る浩瀚な中華露語辭典を編纂した前院インノケンチイがある。

歴代これらの研究家の著作、研究は傳道館附屬圖書館に收藏されて居る。

＊

さて、黑龍州から此處に移つてきたコサツクはその後どうなつたかといふに、殆どその全部が支那人と結婚したため、その子孫は今では支那人と區別がつかないことになつてしまつてゐる。併し、ロシヤ正教に歸依してゐること、また或る少數の者は支那人といふよりは寧ろロシヤ人に近い容貌を保つてゐること、更にまた、教會と密接な關係にある人達は流暢なロシヤ語を操ること、それらが一般支那人と異つてゐるのである。これが卽ち、この一廓が通稱「アルバジン村」と呼ばれてゐる所以である。從つて、所謂「アルバジン村」なるものは、教會そのものではなく、教會を中心とするこの一廓アルバジン・コサツク子孫の住居區域に與へられた名稱にほかならないのである。

教會に附屬して學校がある。中庭を隔てゝ相對する二棟の純支那式家屋、その一棟に支那人子弟（アルバジン支那人）、其の他の一棟に純ロシヤ人子弟が收容されて居り、大體に於いて、我が東京駿河臺にあつたニコライ神學校式の教育が行はれ、支那人學校に於いてもロシヤ語教授が行はれてゐるので、支那學童のうち成績優秀なものは卒業の後ロシヤ人學生を主とする中學校に收容され、卒業の上は教會と密接な關係を持つことゝなるので、この區域に於いては、支那人の口からしても流暢なロシヤ語の囀りが聞かれるので

ある。

目下のところ、斯くして、教團に所屬することになつたものとして三人の男子(牧師級)數名の尼僧がある。筆者が訪れた時、恰度禮拜が行はれてゐたのであるが、右支那人牧師の一人が露語の聖書を誦讀するを見た。

＊

一九〇〇年、團匪事變に際し、叛徒のために教會が破壞され、二百二十二人の支那人が虐殺されたことがある。現在その會堂は修造されて「受難堂」と呼ばれ、主として尼僧のための祈禱所に當てられてゐるのであるが一階には團匪によつて虐殺された右支那人の遺骨が納められてゐるほか、シベリアに於てボリシエヴイキのために殺害された三皇族の寢棺が收められてゐる。（但し、時の狀態から觀て、假令遺骨であるにせよ、遠隔の地に運ぶのは餘程困難だつたはずであるから、中味の眞否は保障の限りではない）

本堂（ウスペンスキイ・ソボール）の中にはアルバジンから僧正マクシームが捧持してきた神像が懸つてゐる。もはや聖像は殆ど認められなくなつてゐるのであるが、これを模造したものが、前記の「受難堂」に掲げられてゐる。

また、本堂に於ける神像の上に、昔アルバジンを護つたコサツクの胸に掛かつてゐた十字架が多數一纏めに額に納められたものが懸けられてゐる。

教團に附屬して印刷所がある。相當古い歷史を持つもの（十八世紀の初期創設）で、前記支那研究に關聯して設置され、今日迄のところ十五萬部の圖書が印刷されたとのことである。輪轉機も備はつてゐて、外部よりの註文にも應じてゐるのではあるが、小規模たるを免れない。

教會敷地の大部分は草木の繁るに委され、寧ろ天然公園といつた觀があり建物はそのうち極く少部分しか占めてゐない。一部は牧場に使用し、牛酪の製造を行つてゐる。

この教團は、公式には、「北京ロシヤ聖教使館」と呼ばれてゐるのであるが、前述の通り、ロシヤ正教會極東本山であり、滿洲、支那全土の教會は勿論、香港、マニラの教會にしても、此處より指令を仰いでゐる。

現館長はヴイクトル僧正である。

黄河

中村　英男

一、黄河の全貌

青海省の一小湖星宿海に源を發した黄河は一旦南東に折れ、急に北に轉じて蘭州・寧夏を過ぎ、萬里の長城を北に出て東曲、オルドスの北岸を洗つて更に南折、再び長城を南に越え、陝西・山西の境を南下して潼關に達すると此處で亦再び東方に轉向する。潼關から東した黄河は三門の嶮を過ぎ、河南の孟縣に達して初めて支那平原の扇狀沖積地の尖端に出る。

此處からは古來數千年間自分で埋めつくした平原、自分の運んだ黄土の沖積地を横貫して、山東省北部渤海に注いでゐる。

其の全長約四千七百キロ、其の流域一二六萬平方キロ、人口一億二千を擁して居る。

由來黄河は支那中原の母胎であり、黄河に育まれた沖積平原は支那文明の温床をなして來た。漢（新）の王莽以前二千年の間は此の大きな平原は徐々に開發されて、孔孟莊老の文華を開き、殊に戰國時代の諸侯の富國强兵の政治は漢民族の實力を涵養して、秦の始皇帝や、漢の武帝の四方征服の帝業を成就せしめた。

一面此の河は『暴れ河』として支那五千年歷代の脅威となり、治水は支那最大の政治として歷朝の最も苦心した所であつたが、遂に爲す能はざる難治の河として、大平原一億の農民は氾濫の十字架を負はされ來つた。

二、黄河河道の變遷

水一斗泥六升と謂はれる黄河の流れは、山西、陝西兩省間から潼關、洛陽へ東流する地點迄の岩床地帶を最後として、其の後は前述の如く黄土平原の眞只中に突入する。此の地帶に入つて押し流されて來た黄土は到る處河底を平原よりも高くし、氾濫し易くなつて居る。從つて此の邊りの堤防が一度決潰すれば渤海又は黄海に至る二百餘里の河道一帶は忽ち泥海と化してしまふ。河南、安徽、江蘇、山東、河北五省の大平原は謂はば黄河河口のデルタに當るものであり、地圖による北支の諸河川、子牙河、衞河等はその水脈から見れば何れも黄河河道の名殘りともいへる。

このことは黄河河道の變遷史を繙けば自ら明かとなるであらう。即ち、

1、紀元前二二八〇年禹は黄河の河道を始めて治めた、時の河口は天津附近であると謂ふ。

2、紀元前六〇三年河南省宿胥口で決潰し、現在の衞河と殆ど併行する流路をとつた。

3、西暦一一年には魏郡で決潰し、河道は濟南を過ぎ、利津から海に入つた。

4、西暦一〇四八年河道は濮陽で再び變じ、黄河は再度天津方面に流れた。

5、西暦一一九四年陽武で決潰し、壽張縣梁山濼に至つて二派に分れ、其の一は現在の河道に近く、他は淮河に注いだ。

6、西暦一四九三年黃陵岡一帶に築堤完成し、黄河は南流して徐州を過ぎ黄海に入つた。

7、西暦一八五三年蘭封附近で決潰した黄河は再び北流して利津から渤海に注いだ。

三、黄河の治水、利水

黄河の治水に成功し、民を鼓腹撃壌せしめた舜禹の治世は支那のユートピヤとして傳へられては居るが、黄河の根本的な治水は五千年の今日に至るも尚よく爲し得た者は無かつた。

黄河の治水の現狀は僅かに既設堤防の確保に汲々としてゐるのみで、何等見るべき施設はない。

その利水に於いてもたゞ僅かに上流地域寧夏・綏遠兩省に於ける引水渠―これも近年淤塞し、その役をなして居ない――と下流に於けるサイフォン施設を見るに過ぎない。

四、黄河の水運

黄河の交通經濟上の價値は未だ必ずしも優位にあるものとはいひ難い。併し乍らその持つ役割は決して等閑視し得ないものがある。

先づ上流に就いてこれを見よう。上流黄河の船舶の航行區間は寧夏省中衞から山西省河曲に至る間である。この間に動く船舶は一見箱船を思はす粗雜な二〇噸乃至二五噸積の民船であり、船側板の數により、五張船、七張船等の名稱がある。その建造費の如きも三百圓を出でない。天津を中心とする諸河川の民船が少くも一千圓以上を要する點から見ても、極めて安直なもので

あることが肯けるであらう。此の區間の民船數は僅かに五百程度を數ふるに過ぎない。

汽機船の運航は民國に入つて前後三回試みられたが、推進機の破損により何れも失敗に終つてゐる。といふのはこの區間水路は河狀の良好な區間は水深五メートル以上を有するが、俗に破河區域と呼ぶ氾濫區域に入ると、水深一メートルにも及ばず、而も正流の識別が困難なため屢々坐洲の憂目を見ることが失敗の主因を爲して居るのであらう。

この區間で興味深いものは腹をくり拔いた牛皮の中へ特產品羊毛な詰込み、それを幾つも並べて材木を渡し、遠く甘肅邊りから筏として下つて來る「皮筏子」であらう。一說には遠い昔、中央文化移動路線を通つて、メソポタミヤ地方の皮袋文化が入つて來たものだと謂はれる。

上記のやうにこの區間の水運は極めて原始的なものではあるが、一方この水路はこの地方の有力な交通路として、重要位置を占め、殊に寧夏、包頭間の水路は最も利用され、事變前の輸送量は年間約二萬五千瓲、輸送貨物は五原、臨河の雜穀、磴口の岩鹽、寧夏の阿片、寧夏、甘肅、青海の羊毛を大宗とする。上航貨物は多く雜貨であるが、上航には約一ヶ月半乃至二ヶ月の日數を要する爲、數量としては極めて僅かなものしか動いて居らない。山西、陝西間の黃河は急湍多く河曲、禹門口間は全く舟運が無い。殊に禹門口附近には瀑布があり、全く航行不能である。

禹門口から下流は又航運開け潼關に至る間は石炭の運搬船が相當動いて居る。潼關以東は固より舟運の便はあるが京漢線黃河站邊りまでの水運は隴海線の開通後は殆ど無くなつた。殊に陝州の東北約六十粁の地點、三門峽には河身に天地人の三岩門屹立し、流水激突し、水勢滔々として四米內外の激流となつてゐる。その爲航夫間には難所として恐れられ、難破もその約五%にのぼると謂はれて居るのであるが、この區間の航行は近時殆ど無くなつた。

黃河に於ける水運はなんと謂つても濟南の河港濼口を中心としたものを擧げねばならない。この區間の航行船舶には無論汽機船はなく、一見海洋戎克を思はせる二十瓲乃至三十瓲級の民船(名稱、楊木頭鹽利子、西河船)が動いて居るに過ぎないが、數に於いて三千隻を算え、その勢圏下流利津、上流黃口鎭、更に遠く京漢線黃河站に及んで居り年間交通量は五十萬瓲を超え、津浦線の有力な培養線となつてゐる。尤も昭和十三年六月以後は河道の變遷により全く航運は杜絕えて居るのであるが、下流利津、河口間の水運は僅かに小型海洋戎克(漁船)の出入を見るのみであり、大して貿易量は無い。

五、新黃河の出現

昨夏六月黨軍の皇軍進擊阻止を目的とした開封西北六十粁の三劉砦及びその上流約三十粁京水鎭の二ヶ所の破堤は「世紀の悲劇」新黃河の出現となり滔々たる濁流は河南、江蘇、安徽三省の豐饒な澤野を水浸しとし、これが爲數百萬の支那農民の命を奪ひ去つた事實は今尙世人の腦裡に生々しい所である。この新黃河に對する對策としては旣に開封を今後の浸水から救ふ爲と、增水期に於ける災害を最小限度に止むる爲の二つの目的から三劉砦決潰個所の修復、及び京水鎭決潰口下流一粁地點の堤防の開鑿工事が行はれた。目下の情勢では決潰個所の修復による舊黃河への導水は再び別の場所に於て敵の破壞を招く處れがあり斯くては昨年以上の慘害を惹起することともならう。

要するに黃河の流水を將來如何に導くべきか、新黃河に對して採るべき方策如何は今後に殘された大きな課題でもあり、又之れが解決は黃河治水史上一新紀元を劃するものともいへよう。

黄河

中村　英男

一、黄河の全貌

青海省の一小湖星宿海に源を發した黄河は一旦南東に折れ、急に北に轉じて蘭州・寧夏を過ぎ、萬里の長城を北に出て東曲、オルドスの北岸を洗つて更に南折、再び長城を南に越え、陝西・山西の境を南下して潼關に達すると此處で亦再び東方に轉向する。潼關から東した黄河は三門の嶮を過ぎ、河南の孟縣に達して初めて支那平原の扇狀沖積地の尖端に出る。

此處からは古來數千年間自分で埋めつくした平原、自分の運んだ黄土の沖積地を横貫して、山東省北部渤海に注いでゐる。

其の全長約四千七百キロ、其の流域一二六萬平方キロ、人口一億二千を擁して居る。

由來黄河は支那中原の母胎であり、黄河に育まれた沖積平原は支那文明の温床をなして來た。漢（新）の王莽以前二千年の間は此の大きな平原は徐々に開發されて、孔孟莊老の文華を開き、殊に戰國時代の諸侯の富國强兵の政治は漢民族の實力を涵養して、秦の始皇帝や、漢の武帝の四方征服の帝業を成就せしめた。

一面此の河は『暴れ河』として支那五千年歴代の脅威となり、治水は支那最大の政治として歴朝の最も苦心した所であつたが、遂に爲す能はざる難治の河として、大平原一億の農民は氾濫の十字架を負はされ來つた。

二、黄河河道の變遷

水一斗泥六升と謂はれる黄河の流れは、山西、陝西兩省間から潼關、洛陽へ東流する地點迄の岩床地帶を最後として、其の後は前述の如く黄土平原の眞只中に突入する。此の地帶に入つて押し流されて來た黄土は到る處河底を平原よりも高くし、氾濫し易くなつて居る。從つて此の邊りの堤防が一度決潰すれば渤海又は黄海に至る二百餘里の河道一帶は忽ち泥海と化してしまふ。河南、安徽、江蘇、山東、河北五省の大平原は謂はば黄河河口のデルタに當るものであり、地圖による北支の諸河川、子牙河、衞河等はその水脈から見れば何れも黄河河道の名殘りともいへる。

このことは黄河河道の變遷史を繙けば自ら明かとなるであらう。即ち、

1、紀元前二二八〇年禹は黄河の河道を始めて治めた、時の河口は天津附近であると謂ふ。

2、紀元前六〇三年河南省宿胥口で決潰し、現在の衞河と殆ど併行する流路をとつた。

3、西暦一一年には魏郡で決潰し、河道は濟南を過ぎ、利津から海に入つた。

4、西暦一〇四八年河道は濮陽で再び變じ、黄河は再度天津方面に流れた。

5、西暦一一九四年陽武で決潰し、壽張縣梁山濼に至つて二派に分れ、其の一は現在の河道に近く、他は淮河に注いだ。

6、西暦一四九三年黄陵岡一帶に築堤完成し、黄河は南流して徐州を過ぎ黄海に入つた。

7、西暦一八五三年蘭封附近で決潰した黄河は再び北流して利津から渤海に注いだ。

三、黄河の治水、利水

黄河の治水に成功し、民を鼓腹擊壤せしめた舜禹の治世は支那のユートピヤとして傳へられては居るが、黄河の根本的な治水は五千年の今日に至るも尙よく爲し得た者は無かつた。

黄河の治水の現狀は僅かに既設堤防の確保に汲々としてゐるのみで、何等見るべき施設はない。

その利水に於いてもたゞ僅かに上流地域寧夏・綏遠兩省に於ける引水渠——これも近年淤塞し、その役をなして居ない——と下流に於けるサイフォン施設を見るに過ぎない。

四、黄河の水運

黄河の交通經濟上の價値は未だ必ずしも優位にあるものとはいひ難い。併し乍らその持つ役割は決して等閑視し得ないものがある。

先づ上流に就いてこれを見よう。上流黄河の船舶の航行區間は寧夏省中衞から山西省河曲に至る間である。この間に動く船舶は一見箱船を思はす粗雑な二〇噸乃至二五噸積の民船であり、船側板の數により、五張船、七張船等の名稱がある。その建造費の如きも三百圓を出でない。天津を中心とする諸河川の民船が少くも一千圓以上を要する點から見ても、極めて安値なもので

あることが肯けるであらう。此の區間の民船數は僅かに五百程度を數ふるに過ぎない。

汽機船の運航は民國に入つて前後三回試みられたが、推進機の破損により何れも失敗に終つてゐる。といふのはこの區間水路は河狀の良好な區間は水深五メートル以上を有するが、俗に破河區域と呼ぶ氾濫區域に入ると、水深一メートルにも及ばず、而も正流の識別が困難なため屢々坐洲の憂目を見ることが失敗の主因を爲して居るのであらう。

この區間で興味深いものは腹をくり拔いた牛皮の中へ特產品羊毛な詰込み、それを幾つも並べて材木を渡し、遠く甘肅邊りから筏として下つて來る「皮筏子」であらう。一說には遠い昔、中央文化移動路線を通つて、メソポタミヤ地方の皮袋文化が入つて來たものだと謂はれる。

上記のやうにこの區間の水運は極めて原始的なものではあるが、一方この水路はこの地方の有力な交通路として、重要位置を占め、殊に寧夏、包頭間の水路は最も利用され、事變前の輸送量は年間約二萬五千瓲、輸送貨物は五原、臨河の雜穀、磴口の岩鹽、寧夏の阿片、寧夏、甘肅、青海の羊毛を大宗とする。上航貨物は多く雜貨であるが、上航には約一ヶ月半乃至二ヶ月の日數を要する爲、數量としては極めて僅かなものしか動いて居らない。山西、陝西間の黃河は急湍多く河曲、禹門口間は全く舟運が無い。殊に禹門口附近には瀑布があり、全く航行不能である。

禹門口から下流は又航運開け潼關に至る間は石炭の運搬船が相當動いて居る。潼關以東は固より舟運の便はあるが京漢線黃河站邊りまでの水運は隴海線の開通後は殆ど無くなつた。殊に陝州の東北約六十粁の地點、三門峽には河身に天地人の三岩門屹立し、流水激突し、水勢滔々として四米內外の激流となつてゐる。その爲航夫間には難所として恐れられ、難破もその約五％にのぼると謂はれて居るのであるが、この區間の航行は近時殆ど無くなつた。

黃河に於ける水運はなんと謂つても濟南の河港濼口を中心としたものを擧げねばならない。この區間の航行船舶には無論汽機船はなく、一見海洋戎克を思はせる二十瓲乃至三十瓲級の民船（名稱、楊木頭躉利子、西河船）が動いて居るに過ぎないが、數に於いて三千隻を算え、その勢圈下流利津、上流黃口鎭、更に遠く京漢線黃河站に及んで居り年間交通量は五十萬瓲を超え、津浦線の有力な培養線となつてゐる。尤も昭和十三年六月以後は河道の變遷により全く航運は杜絶えて居るのであるが、下流利津、河口間の水運は僅かに小型海洋戎克（漁船）の出入を見るのみであり、大して貿易量は無い。

五、新黃河の出現

昨夏六月黨軍の皇軍進擊阻止を目的とした開封西北六十粁の三劉砦及びその上流約三十粁京水鎭の二ヶ所の破堤は「世紀の悲劇」新黃河の出現となり滔々たる濁流は河南、江蘇、安徽三省の豐饒な澤野を水浸しとし、これが爲數百萬の支那農民の命を奪ひ去つた事實は今尙世人の腦裡に生々しい所である。この新黃河に對する對策としては旣に開封を今後の浸水から救ふ爲と、增水期に於ける災害を最小限度に止むる爲の二つの目的から三劉砦決潰個所の修復、及び京水鎭決潰口下流一粁地點の堤防の開鑿工事が行はれた。目下の情勢では決潰個所の修復による舊黃河への導水は再び別の場所に於て敵の破壞を招く處れがあり斯くては昨年以上の慘害を惹起することともならう。

要するに黃河の流水を將來如何に導くべきか、新黃河に對して採るべき方策如何は今後に殘された大きな課題でもあり、又之れが解決は黃河治水史上一新紀元を劃するものともいへよう。

北支と列國

尾崎庄太郎

近代歐洲の商船隊が海賊と貿易とを兼ねて東洋に來航した時、之等諸國を夷狄とする淸朝の皇帝たちは、決して之との通商貿易を許さうとしなかつた位であるから、その以前外國との恒常的な關係など、まづ無かつたと謂ひ得る。が、その後オランダ、イギリス等の執拗な要求に淸朝が廣東を通商港と定むるに至つて漸次關係がつき始めた。

就中、英國は近代資本主義商品と共に亡國滅種の恐るべき阿片を支那に輸入して巨額の銀を奪ひ去つた。阿片戰爭は斯くて起り、敗戰を重ねた支那は三度の屈辱的媾和、卽ち天津條約、北京條約、南京條約に於て戰費の賠償燒却阿片の賠償、通商貿易港の設定等を約した。弱味につけ込んだロシアとフランスが續いて通商貿易條約を結んだ。

天津が貿易港として開かれ、北支が外國と經濟的にも恒常關係ができたのは、實に阿片戰爭の結果である。が、この時は列國は貿易居住の權利を得たに過ぎず、今から見て更に歷史的に重要な事件は後に起つた日淸戰爭であつた。弱國日本何するものぞといふ淸朝官僚の錯誤は、連戰連敗の結末として の馬關條約に於て

淸國に於て各外國に向つて開き居る所の各市港の外に日本國臣民の商業住居、工業及製造業の爲に沙市、重慶、蘇州、杭州の市港を開くべし

といふ約定をした。次いで主要各國もまた最惠國約款によつて漸次同一權利を獲得するに至つた。所謂治外法權は一八四三年初めて英國との間に設定され、漸次各國に及んだが、日淸戰爭までは、まだ本當の意味での經濟活動を支那に於いて營むことを許されてゐなかつたのである。が、この馬關條約によつて、初めて商業、住居、工業、製造業、運輸業等を營むことが出來るやうになつたのみならず、ロシアは遼東半島を、ドイツは膠州灣及び山東半島を、イギリスは威海衞を、フランスは廣州港を夫々我物にしてしまつた。

その後、各國は夫々競つて支那にその勢を扶植した。今、北支に關する列國の主なる權益を拾つて見ると

▼天津各國租界設定年別表

租界	設定年	租界	設定年
イギリス租界	一八六一年	ロシヤ租界	一八九八年
フランス租界	一八六一年	ベルギー租界	一九〇一年
ドイツ租界	一八九五年	イタリー租界	一九〇二年
日本租界	一八九八年	オーストリー租界	一九〇三年

▼北支鑛業經營國別及設立年表

名稱	國籍	設立年	資本金
開灤礦務局	英支合辦	一九一一年	二、〇〇〇千磅
魯大公司	日支合辦	一九二三年	一〇、〇〇〇千元
焦作煤礦	英國	一九〇二年	一、二四三千磅
井陘礦務局	獨支合辦	一九〇六年	四、五〇〇千元
門頭溝煤礦局	英支合辦	一九一八年	二、九八〇千兩

▼北支各線鐵道に對する各國の權益

名稱	起工年	敷設權所有國	借款附與國
京奉線	一八八一	イギリス	英、露、獨
京漢線	一八九七	ベルギー	最初白耳義、後英、佛
膠濟線	一八九九	ドイツ	獨逸資本敷設
道淸線	一九〇二	イギリス	英國
隴海線	一九〇四	—	白耳義
京綏線	一九〇五	—	日本
正大線	一九〇五	—	露、佛、白
津浦線	一九〇八	—	英、獨
同成線	一九三三	—	ベルギー

各國の所謂利權熱が最も露骨に支那に向けられたのは日淸戰爭から日露戰爭頃までであり、この利權熱が餘りに露骨だつたので、北淸事變または團匪事變と呼ばれる破壞的な排外運動が一九〇〇年山東に勃發し、忽ち全北支をその運動に引入れてしまつた。列國聯合軍が天津から北京に入城し、徒手空拳の暴民を鎭定したが、その名殘りが現在北京に存在してゐる公使館區域である。この公使館區域は外國人の生命の安全保障のために設けられたものであるが、現在でも、新政權の手のとどきかねる處となつてゐる。

團匪事變の結果、支那は却つて諸外國から租界を劃取されるやうな結果になつたが、支那の民衆も其後やうやく目覺める所があり、また日露戰爭に於ける日本の勝利によつて大いに啓發せられた結果、澎湃として利權回收熱が勃興し各國が獲得してゐた權利の中には相當回收されたものもある。

北支の農村 4

みづの・かほる

部落の廟

北支農村の各部落には、必ず一つか或は時に二つ以上の廟がある。それは恰も日本の農村に於ける氏神樣と同樣である。

筆者は、北支の農民は、かなり信仰心が強いのじやないかと思ふ。たとへそれが歐米の文化人のやうに、洗練されてゐないで、たわいもない偶像を崇拜するにしても、ひたむきに信仰する農民の純情さをゆかしく思ふ。

北支の農村位災害に惱まされる農村は、この世に又と無いであらう。先づ旱魃が十年九旱と言はれ、それに水害蟲害、雹害、更に兵匪の害と言つたやうに。その內でも、天の災害だけはどうにもならない。これだけは、天の命に從ふよりすべはないのである。そこで農民は何ものか大きな力にたよりたい、たのみたいといふ切なる願がわいて來る。そんなことから、恐らく廟は生れて來たのではあるまいかと思ふ。

も一つには、祖先を祀つた祖廟がある。祖廟はもともと一宗族だけの祭祀が行はれてゐるが、これも年代が重なつて行くと、前者の種類の廟とこんがらがつてゐるものもあるやうである。

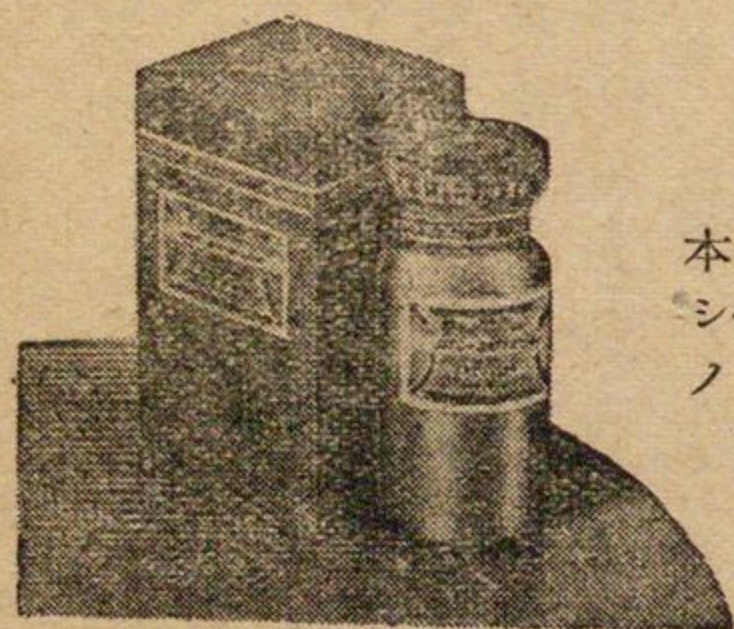
さて廟には祖廟は別として、一般の廟には、佛敎もあれば、道敎もある、儒敎もある。日本の神社に似通つたものもあり、種々雜多で、神とも佛ともつかぬものが多い。

最も一般的なものを列べて見ると、關羽を祀つた關帝廟、岳飛を祀つた岳王廟、母性を祀つた娘々廟、これは赤ん坊を授けるといふ神樣、藥王廟といふのが醫者の神樣で、唐の時代の孫某と云ふ名國手を祀つたもの、病氣を癒して貰へる。財神廟は金持ちにして貰へる福の神樣、火神廟は火の神、龍王廟は水の神樣で、旱に雨をお願ひする神樣、海の神の海神廟は漁師の神樣、山の神は山神廟、馬神廟は博勞の神樣土地廟が土地の豐饒を掌る神樣、三官廟が堯舜禹の廟で、文廟が孔子樣の廟である。佛樣には、釋迦廟、觀音菩薩廟等々、道敎には又それぞれの廟がある。

以上のやうな御利益を賜る、多種多樣の廟があつて、大概の所望なら叶へて貰へる都合のいゝ神佛が祀られてゐる。何れにしても、廟宇の奧の座には偶像が据ゑられてゐて、佛像といふか御神體といふか、その像には金、石、木、土と、とりどりであるが、多くは土人形で、その上を極彩色して、如何にも藝術的に出來てゐるものが多い。

部落の廟は、勿論部落共有のものであり、その昔部落民の醵出によつて地所を購ひ、それ石材だ、それ木材だ、瓦だと、部落民が應分に負擔し、貧富のけじめ無く、清き奉仕によつて建てられたものである。

廟宇で新しいものは極めて少く、甍破れて軒傾けるものが多い。北支の農村にある廟は、今から四百年位前の明朝の中葉のころに建てられたものが多いことは、廟の鐘や建立碑によつて窺れるが、そのころはおほかた農村も泰平の世が續いたのであらう。

廟のある場所は、平地であると大概部落の中心にあつて、部落の家々がこれを圍繞してゐるものが多い。しかし部落の近所に、丘や景色のいゝ山などがあると、そこを卜して建てられ、廟の境內は樹木を植ゑ、或は泉水を巡らしたりして、一種の遊園地をなしてゐるものが多い。かう云ふ點は、日本の

鎮守の森に彷徨たるものがある。

廟は部落民の守りの神佛であり、部落民の信仰の的になつてゐる。病氣になれば願をかけ、赤ん坊がほしいと言つては祈る。日本でもお寺參りや、社の參詣は老人が多いやうに、こゝでも廟參りは老人の領分で、若い者などにはふり向きもしない者さへある。普通の信心な老人は、月の一日と十五日には、一家の無病息災を祈るのである。

彼等の參拜は、かしわ手を打つたり手を合せたりはしない。像の前に膝をついて三回ぺこぺこと頭を下げる。支那での最敬禮である。

像の前には、又香爐があつて線香を供へる。支那の線香は、田舍で木の屑や紙屑で造つた粗末なもので、形も大きく、たばごと火をつけるものだから香煙縷々として昇るといふより、薪にでも火をつけてくすべると言つた方が早い。

參拜に當つては、日本のやうにお賽錢を投げたり、供物を獻ずるやうなことは、部落の小さい廟にはしない。又祈りには、お經も無ければ、のりとも無い。たゞ願ひごとを心に念ずるだけである。財神廟には、金持ちになるやうにと、黃金色の紙で作つた小判を供へる。

廟によると、以前日本にもあつた撫佛がある。目が悪いと言つて、佛樣の目を撫でた手で自分の目を撫で、自分の具合の悪いところを撫でゝ、神樣のからだの同じところを撫でる。誠に病氣の媒介に好都合の佛樣である。

北支には所によると陰陽の神佛、淫祠がある。緣結びの廟として、若い男女の參詣者が多い。

旱の雨乞や、蟲よけなどゝなると、部落總出で祈り、豐年だと芝居などして廟に御禮を申上げる。

廟には又年に一度の祭があるものが多い。これもありふれた部落の名もない廟は、何んの賑ひもないが、靈驗あらたかな廟などになると、近郷近在の善男善女が參詣に來て人山を築く。境內には、露店など並んで時ならぬ賑ひを呈する。姑娘たちは飴玉を買つたり花かんざしを買つたりして、一日を樂しむ。丁度日本の氏神樣の、秋祭そつくりである。

廟は年々壁の塗りかへや、瓦の破れをとりかへて繕ふ。廟を立派にして置くことは、部落の誇りであり、面子である。廟が大きくて立派なことは、その部落が裕福であり、團結の強い部落であることを物語つてゐる。

大きな部落の廟には、廟守りがゐるものもあるが、小さい部落にはそんなぜいたくなことは出來ない。大きな廟には、廟つきの土地をもつてゐるものが多く、この土地からあがる小作料で廟守りを雇つたり、廟の修理などの費用にあてたりしてゐる。

ところが蔣介石の北伐前後から、北支にも偶像崇拜を打破しようとする運動が盛んになつて、廟の多くは學校に改造され、廟產は教師の給料にふりあてられ、廟庭は生徒の運動場となり、廟守りも、學校の小使ひになつてしまつた。甚しいのになると、きのふまで拜んでゐた觀音樣の首を、たゝき落したりしたものもある。

だが觀音樣をたゝきこわしたりしたのは、一部の新しがりやの若者たちで部落の老人たちは、昔ながらに信仰をつゞけ、首のない觀音樣でもお祈りを捧げてゐる。

部落の廟の境內には、多くは老樹が茂つてゐて、二、三百年も經たと思はれる木は珍しくない。夏はこの樹木が蔭をつくつて、老人や子供たちがこゝに集つて來る。子供たちが、もの知りの老人からむかし／＼と昔話を聞くのもこの廟の木蔭である。

樹木にはいろいろあるが、槐や柏や松が多く、珍しいものには、北京地方では白松、山東半島地方では公孫樹が多い。

廟が又部落の人達の相談の集會所になり、村長さんの事務所であり、警備の詰所であることは、昔も今もかわりはない。村長さんが、部落民を集めて村税の取立を相談したり、土匪の要求を鳩首合議するのもこゝである。

部落には、大きな廟のほかに、個人で畑の隅や、屋敷の內に小さい祠を祀つてゐるものがある。殆んど名もつかぬ神樣であり佛樣である。畑の隅などにある祠は、蟲や水や旱の天災に對し土を守り、作物を守る神佛が多く、小さなものになると、煉瓦の十枚位で築きあげた可愛いゝ祠もある。

又老樹は神佛が宿るといふ迷信があり、老樹が祀られて赤い布ののぼりを立てたり、線香を供へたりしてゐるものもある。

以上は一般の農村に於けるものであるが、回敎徒の多く住んでゐる地方になると回敎の寺院がある。しかしこれは大がゝりのものであるので、縣城以外には殆んど見當らないやうである。

又處によると、天主教の敎會が建てられて、日曜の禮拜を行つてゐるものもある。

可園雜記

加藤新吉

北支は稀有の洪水である。春からの旱魃に惱んできた農民は今や天に溜る濁水の上に浮んでゐる。

毎年何處かに旱魃がある、何處かに洪水がある。旱魃と洪水と、之に續く飢饉と疫病の流行とに絶えず惱まされてゐるのが支那の農民である。絶えず惱みながらも生長し繁殖して死滅することのないのも支那の農民である。

彼等には數千年の生活體驗がある。それが彼等に生きる途を敎へる。彼等は自然を征服するよりも寧ろ自然に順應しようと努める。大陸の自然は暴威を逞しくする。人力を以て征服するには餘りに大きく且恐るべきことを、彼等は祖先以來身にしみて味ひ識つてゐる。恐れつゝ、從ひつゝ、彼等は生きて來たのである。

地を相すると謂ひ、居を卜するといふことは、近代人には動もすれば迷信みたいに考へられ勝であるが、さうした近代人の計畫や施設は一度の洪水で洗ひ流されてしまふ。支那には名を聞いただけでも馬鹿にされさうな風水先生なるものがゐる。これが井を掘り家を建てる時の相談にのる。其說がどこまで當になるかは知らないが、支那の農民が概ね旱魃にも飲料水の出るところ、洪水にも洗はれぬところに家を建ててゐることは事實である。

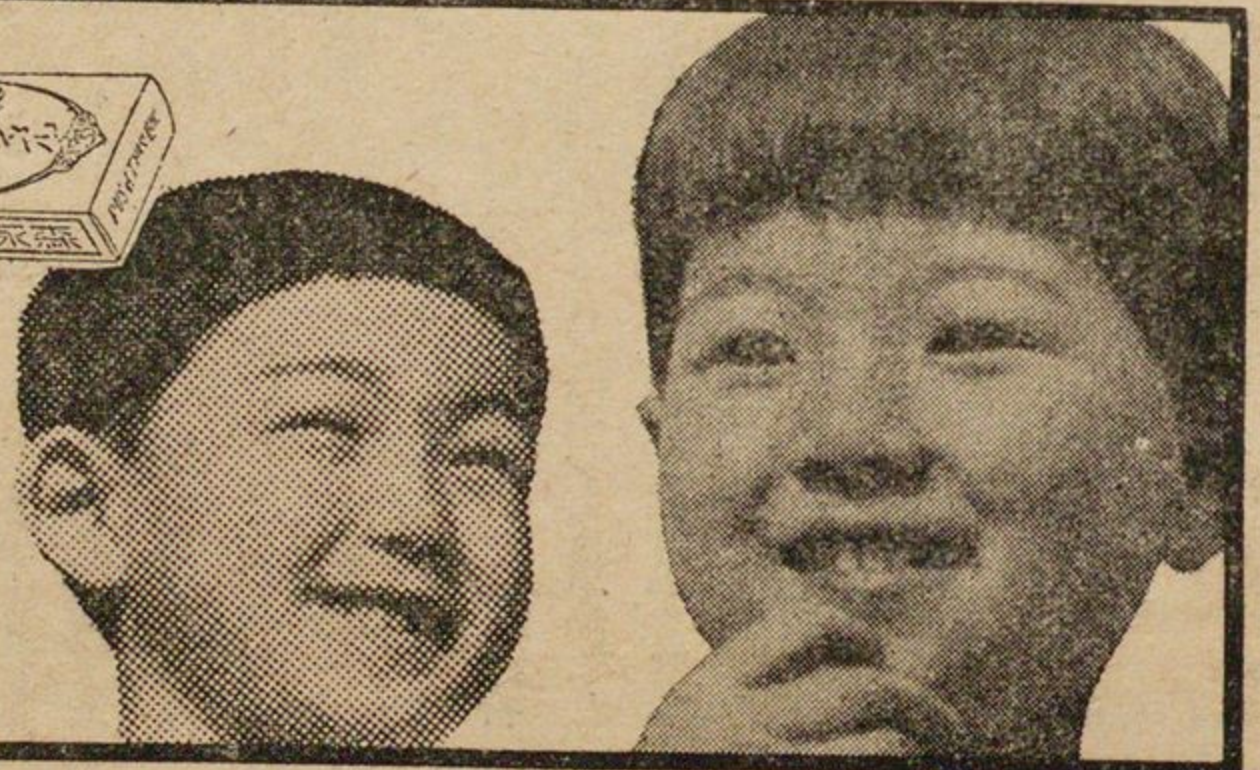
昭和十二年の北支の洪水に際して、部落が島のやうに浮び、農民は備へつけの舟を繰つて水の上に出た穀物の穗を刈り、更に減水に從つて其莖の一尺を刈る狀況を私は親しく見た。そしてこれだから生きて居られるのだと思つた。

洪水地帶、旱魃地帶、曹達地帶、そこに何を如何にして植ゑれば最少限度生活が成立つかといふことを彼等は識つてゐる。うつかり役人の口車に乘つて棉花增產の實行者になつたりしようものなら、忽ち餓えねばならぬことも亦彼等が最もよく識つてゐる。

無智蒙昧、近代科學とは凡そ隔絕し矛盾した生活ばかり營んでゐるかに見ゆる彼等は、最もよく自然に卽して居る。理論と體系とを備へた學問、印刷された科學の代りに傳說や習慣や俚言の形をとつた生活の掟がある。その掟は、代々古老の口に依て語られ守られて居る。所謂文獻の獻は賢なり古老なり、古老に對する尊敬と服從とが彼等の生活を規定して自然から條理から乖離することを防いでゐる。

我等の地圖は綠色なら平野、褐色なら高地、水色なら河川沼澤を示す。雨後の氾濫がどうかすると二年も三年も續くやうな所でも矢張り綠色である。親しむべく愛すべき島國の自然に育つて自然を恐れることを知らず、大陸の自然と人とに就いては何も知らぬ癖に內心なめてゐる日本人の爲に、もつと親切な地圖、せめてこゝは旱魃になる、こゝは洪水になるといふことだけでも判るやうな地圖が備へられる必要がありはせぬか。

日本人は大陸に於ける大建設を考へてゐる。それによるアジアの興隆を期待して國民は張り切つてゐる。その爲の幾多の計畫が樹てられて居る。願ふは張り切つた餘りに島國と大陸との相違を忘れないことである。祈るは紙の上の計畫が洪水で押し流されないやうにである。望むところはもつと支那の古老や農夫や風水先生を尊重することである。

清幇の歴史

田中庸三

清幇（チンパン）は一般には青幇と書き、舟運業者の一俠客的な祕密結社といはれてゐる。清の康熙年間に翁、錢、潘の三祖が清朝の運糧船を引受けたのが初で、民國革命後はその勢力衰へたりとはいふもの丶依然として義氣を失はず、旱碼頭と稱して相互の連絡を保ち、今日でも尙その潜勢力は爲政者の注目を惹きつ丶ある。その內容は總て嚴祕に附されてゐるため、眞相を把握することは出來ないが、こ丶には一說を摘記紹介した。

◇

清幇の初祖は梁武帝の頃、印度から渡支した達摩大師である。のち武帝の詔を退けて北魏に入り少林寺に面壁九年、臨濟宗を創め、二祖慧可禪師に衣鉢を傳へた。六祖を經て明の永樂年間に金祖鵝頭禪師は「清淨道德文成佛法仁倫知慧本來自信元明興禮大通悟學」の二十四字を設定して後世の支派となし、自ら清字派を占めて、清源と號した。運糧の始祖であり、また清門第一代の祖師とされてゐる。この金祖は景泰帝の時運糧督理官として功があつたが、その行賞を辭退して柴霞山に入り六祖慧能禪師に入門した人である。

金祖は明の萬曆年間に羅祖を門下に收めた。羅祖は甘肅省の產で、はじめ明の文官であつたが、大臣魏忠賢に謀られて投獄され、獄中に佛道を修めること十八年、のち柴霞山に入つて金祖に師侍したものである。淸門第二代の祖師といふ。清の順治三年に苗賊が亂を起し、帝力これに及ばないので、金祖は羅祖に命じ之を勸化せしめて偉功をたてた。官軍の總師陸陸は羅祖の非凡を知り官を棄て丶入門を乞ふたけれども羅祖は之を入れず、柴霞山に入つて洞門を閉めてしまつた。しかし陸陸はあとを追うて洞門に至り「紅雪齊腰蘆茅穿膝」の苦行を積んで遂に入門を許された。陸陸の道號を道元といふ。淸門の第三祖である。

清の康熙初年に回敎徒が亂を起したので、陸陸は羅祖の命を奉じて北京に行き、一嚇して回兵を退散せしめた。帝は之を嘉して、前官の總師を賜つたが、これを受けずに「不日海晏河清」と安清運糧のことを豫言して去つた。そして陸陸は杭州の寶華山啞叭橋東の劉寺菴に入つて說法讀經の日を送らうと思ひ、杭州に向ふ途中、渡江に苦しむ三人の男に會つた。話を聞けば

「自分たちは翁、錢、潘と言ふ者です。五臺山の那王庙に行くのですがこの江が渡れません」

と慈悲を求められたので、陸陸は前面を指して天橋を現はし三人を無事に渡江させて姿を消した。

翁、錢、潘の三人が五臺山に至るや陸祖はこれを迎へ三人に法號を授けて修道せしめた。卽ち翁祖德正、錢祖德慧、潘祖德林と稱し淸門第四祖の德字派である。

のち、清朝は南方の稅を北に運ぶため、午門に皇榜を揭げて義士を募つた。これを傳へ聞いた羅祖は三人に向つて「金祖運糧の遺業に倣ひて之に應募し以て報國の誠を盡すと共に、傳道して祖師の香煙を續くべし」

と命じた。三人は命を奉じて北京に入り、榜を揭げて運糧奉國を誓つた。これを聽いた康熙帝は大いに悅び、三人に諱を賜うて潘德林を正統に、翁德正を左統、錢德慧を右統となして四品督糧官の職を與へた。

雍正三年に三人が建議して運河を浚渫し、糧倉及び運糧船等を建造した。翌年竣工と共に運糧を開始したが、人足取締の困難に鑑み、上奏して各山門を開いて汎く弟子を招き、三敎歸一義俠成佛を安清の道となして、運糧に服せしめ、かつ傳道を試み、翁祖は八人錢祖は二十八人、潘祖は三十六人の弟子を收めた。これを淸門第五代文字派と稱し、同心合力して漕運の安全を期した。この幇名に「安清」といふ語を用ひたのも此の理由からである。

三祖の堂名を翁佐堂、錢保堂、潘安堂といふ。翁錢の二祖は康熙三十年仙遊したが、潘祖は廣く義士を收めて多年運糧に貢獻し（現今の清幇は潘安堂系である）乾隆年間に黃河の二擺口と鳳林間に於て烈風に遭ふて遂に他界、杭州の啞叭橋に安葬された。

その後咸豐四年長髮賊の爲に運糧船は悉く焚き拂はれて運糧も自然停頓してしまつた。爾來三祖師の香煙を絕つこと四十年、光緒十二年に至つて漕運復活し小糧船十八幇（江南八幇、江北十幇）を設けて官營となつたが、そのうち清幇は江淮泗、興武泗、興武六、嘉白、嘉海衞、杭三の六大幇（何れも組名）のみであつた。

光緒二十六年に團匪事件が起つたの

で、西太后は帝を擁して西安に蒙塵した。その際に、十八帮のうち半分を西安に送るやうになつたので、六大帮はこれを引受けて功があつた。その爲に六大帮だけを殘してその他の各帮はそれぞれ解散を命ぜられた。

二十八年革命が起つてから、納税は銀兩に代つたため運糧の必要がなくなり、六大帮もまた解散のやむなきに至つた。

しかし、以後の入帮者を旱碼頭（陸港）と稱して、各自任意に航運を業とするやうにはなつたけれども、依然義俠を失はずに、相互連絡を保つたために、各碼頭（船着場）の小商人も清帮在籍者は頗る繁昌した。

一日禮字班の方殿元といふ老人は某碼頭で、不在籍の一小商人に家業の不振と生活の苦境を訴へられ入帮を哀願された。老人は運糧停止後、香火船のないことを理由（入帮者は香火船で燒香拜祖の式を行ふ）に斷つたけれども再三の哀願に惻隱の情禁じ難く、遂に自分の家に連れ歸り、家屋内に香堂を設け、船上の方式に倣ふて入帮式を行ふた。これを見た在帮者たちは怪んでその理由を訊ねた。老人が答へて曰ふには、

「一つは本人の誠實に感じ、一つは之を以て我が祖の香煙を續けんとするにあり。然らずんば安清の道斷絶すべし」

と衆人は手を拍いてこれを讚美し、以後は何れもこれに倣ふやうになつたといふ。卽ち「在家裡（ツァイチャリー）」といふのは安清の二字が改稱されたのである。

その後、鐵道、海運の發達と、運河の淤塞によつて航運は日に日に衰微の一途を辿るやうになり、これを業としてゐる清帮も、大親分の他界や、漸滅に伴ふて漸次昔日の面影を失ひつゝある。

しかし乍ら、今日なほ若干の大字班を首領としてゐる週字班、悟字班、學字班等があつて、各地に潛勢力を保有し、（南方には尙相當の大勢力があるが北進するに隨つて微弱の傾向にある）爲政者の注目を惹きつゝある。

以上は清沿帮革史の概略であるが、清帮に入る者は上記諸祖の位牌に香燭を献じ三跪叩頭の禮をすることになつてゐる。その際の位牌供奉方式は左の通りである。

十七祖位牌供奉方式

荷蓮藕根深蒂固萬古千秋不卽不離不諜而合
六祖慧能之位
四祖道信之位
二祖神光之位
供
天地　親師之位、初祖達摩之位、羅祖三位、陸祖三位
奉
三祖僧燦之位
五祖宏忍之位
全祖碧峰之位
翁錢潘道高義重三祖一體同心同德同舟共濟

龍　左護法
聖牌　次房鐵祖王降祖
旨三　長房翁祖蕭隆祖
道　本房潘祖右護法

門
供　護法小爺之位
外
奉

因に十大帮規は次の通りである。

一、師を欺き祖を滅すを許さず
二、前人を貌視するを許さず
三、闇を開き放火するを許さず
四、引水代徠（裏切り密告）するを許さず
五、江湖の亂道を許さず
六、帮規の攪亂を許さず
七、扒彼倒籠（利己の爲師從の關係を亂す）を許さず
八、奸盜邪淫を許さず
九、大小不尊を許さず
一〇、代髮の收入（眞の入帮者たらざる門弟）を收むることを許さず

北京の秋

嘉村岱三

闘蟋蟀

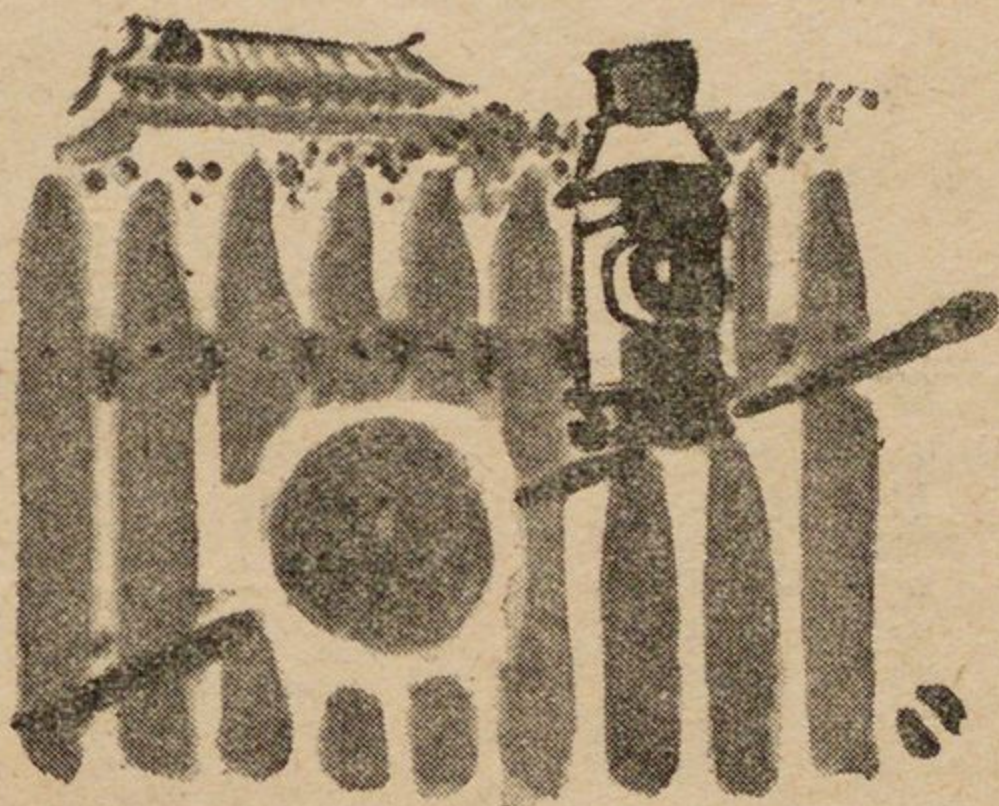
槐の花が過ぎて梅雨も上つた時分、そろそろ蟬の聲にも疲れが見えます。八月下旬になるとすつかり秋らしくなつて朝晩は涼しい。寢つかれぬ夏の夜を忘れて、水に放たれた魚みたいに、澄んだ青空に向つて深呼吸をします。天下無類の北京の秋が來たのです。

王府井の散步道路や、東安市場に、隆福寺や護國寺の廟會に蟲賣が出初める。こほろぎ、鈴蟲（金鐘兒）くつは蟲などいろいろあるけれども一番多いのはこほろぎ。こほろぎは北京の閑人には小鳥と同じく大切な玩具です。小さなブリキ罐や素燒の壺をたくさん並べて賣つてをります。葭稈細工の籠を天秤に擔うて郊外の田舍爺さんが蟈々（くつは蟲）を賣りに來ます。これは子供相手に一匹二、三錢、籠とも十錢二十錢位。こほろぎ（蛐々兒）は二種類あつて秋になるとよく喧嘩するのは熱子、多になつてよく鳴くのは冷子です。喧嘩するのは戀の病で雌一匹のために、命のやりとりするのだと云ひます。然し中國人は賭博が好きだからそれを利用します。宋の大臣賈似道は蟋蟀賭博に溺れて國を亡ぼした、傾國の蟋蟀である。闘蟋蟀の盛なのは江南の無錫で、ここは有名な米の集散地であつたから、米商人が一所懸命になつて十萬二十萬の大金を賭けたと云ひます

喧嘩させる時は拳闘選手みたいに體重を量つて、ライト級はライト級とさせる。牙で嚙み合ふのだから頭大牙利なのが强い、それを鑑定家が蟲眼鏡で調べます。さて小さな箱のリンクに入れて小さな筆を持つて鼻面を逆撫でしてやるとこほろぎは大いに怒つて決闘します。それは正々堂々たるもので一度ダウンしたらカマキリみたいに食べたりなどしません。それに大金を賭けるのだから淸朝時代には一匹百元、二百元の蟋蟀がたくさん居たさうです。

この頃はそんな大莫迦は少いので、高くても十圓、二十圓位、鳴聲を樂しむのが主です。多になつてよく鳴くのは風流人が明窓淨机に飾る。念の入つた瓢簞細工の器に入れて大切に水をやつたり餌をやつたりおしつこの世話をしたり、寒い時は懷ろに抱いて鳴かす。瓢簞はいろいろの形や模樣をつけた木型にはめて大きくなつた時取出して磨くのです。

仲秋

街のあちこちに兎兒爺の玩具を賣出すのは仲秋節の前觸です。胡同の飴屋のおばあさんも賣出す、左官屋も內職して賣出す、それは隨分けばけばしくてたくさんなので誰でも氣がつきます。泥作りの兎公は極彩色の衣冠を正して馬や虎や麒麟や鹿に乘つて威張つてゐる。去年はさる蒐集家が見えてうんと買込んで行かれたけれども雅致はない、豪奢なだけのものです。

年に一度の月祭りで日本ならば芒に團子をお供へするところがこちらは大げさにします。滿月の十五夜になると中庭に祭壇を設へて月光馬兒を祀る。それは安物の繪刷紙で神樣のゐる月の宮に兎公が餅をついてゐる圖。お供へに鷄頭の花、枝豆、月餅、林檎など。お月樣が出たら女達が順々に拜む、男不拜月と云ふけれどもこの頃は男でも拜みます。禮拜がすんだら月光馬兒を焚いてお供へを下げ、家族皆して酒宴。

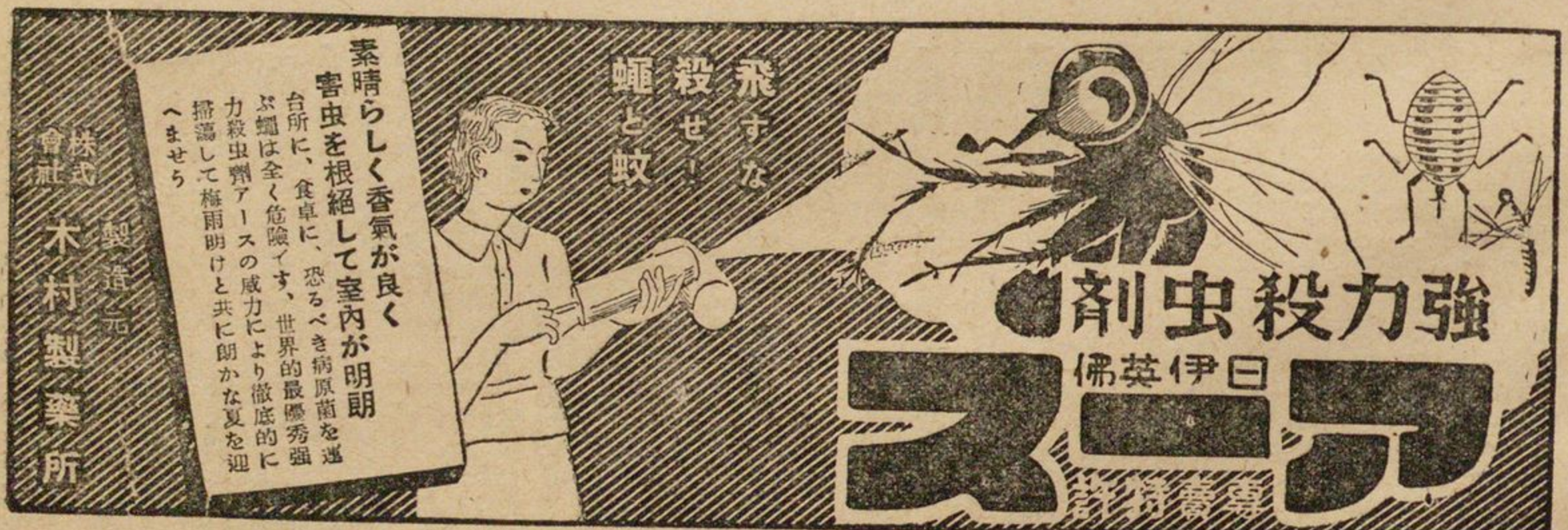
月餅は餅と書くけれども日本の餅とは違ふお菓子です。餡こは豚肉や牛肉、胡桃や乾葡萄、いろいろに作る。月餅の本場は廣東で、仲秋節前になるとお菓子屋ははるばる職人を招くとのことです。

むかし唐の風流天子玄宗は月宮に遊びに行つた、仲秋の晩に道術使がゐて杖を投げたら橋になつた、玄宗は喜んでその橋を渡つて行くうちに何と月宮殿が現はれたと云ふ傳說であります。

九月九日重陽節。菊の花が一杯に咲く、秋天桂花香千里と云ふのは木犀。蟹が美味しくなる。皆燒羊肉（ジンギスカン料理）をたべて、白酒を飮んで氣焰を吐く。私はいつまでも姑娘が玉蘭を飾つてゐてくれたらよいと思ふ。一緒にピクニツクに行きたいと思ふ北京の秋!!

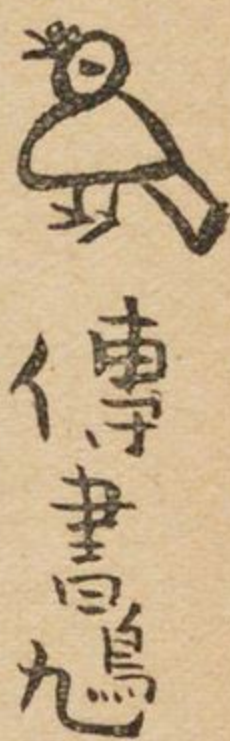
支那芝居雜觀 7

石原　巖徹

◇神仙及陰界

支那劇は傳說的な大衆小說を元にしたものが多い關係上、それらの大衆小說に附き物の神仙談及び陰界の事物が非常に多く使用されてゐる。現代人の常識から見れば荒唐無稽を極め、馬鹿馬鹿しいと思はれるやうなことが、大マジメに演ぜられる。日本の芝居では怪談物に限り幽靈が出るが、支那劇では幽靈もあるが割合に少く、神仙及び幽靈以外の陰界の者が怪談でない普通の劇に盛に出て來る。

神仙（人間以外の假想世界に於ける空想的人物、怪物、妖精等）の活躍を主とする劇で、近年最も流行してゐるのは西遊記、これは例の孫悟空を主人公とするおとぎばなしで他愛ないものだが、何故か、非常に大衆にうけてゐる。この外在來の神仙劇には、混元盒（道教の張天師が妖精を降すもの）天河配（牽牛織女の物語）青石山（神となつた關羽の一黨の妖魔退治）梅蘭芳に依て創始された天女散花、嫦娥奔月、洛神等が有名である。これらは神仙を主とした劇であるが、劇中に神仙類が出て來るものは非常に多い。例へば有名な老生劇打棍出箱（一名瓊林宴）で、范仲禹が妻を見失つた時、土地神といふ神が出て來て（樵夫に化けて）妻の行方を告げる。次いで范が妻を掠奪した土豪戈登雲の家に行くと、戈は范を酒に醉はせて殺さうとする。その時殺神といふのが出て來て范の身を護り反對に下手人（戈の部下）を殺す。この意味は、范はまだ將來狀元に及第して出世する運命があるので、この場で殺させてはならぬと玉帝（道敎的信仰に於て說く天上の支配者）が殺神といふ部下の神に命じて地上に降つて、范を救けさせるといふのである。この場合殺神は物語では人間たる范などの眼には見えないことになつてゐるが、劇では仁王の如く威風堂々たる荒武者の扮裝及び隈取で出て來て、大きなみえをきる。又南天門といふ劇で、忠僕曹福が令孃を助けて逃げる途中、雪の中で仆れる際、八仙（八人の仙人）が登場して、曹の忠誠に報ゆる爲に、曹を南天門の土地神に封ずるといふ場面がある。この場合も八仙は既に神仙になつた曹の眼には見へても、令孃の眼には見へないことになつてゐる。神仙が人の危難を救ふといふ場面は劇に非常に多い。

陰界の方では、佛敎の說話目蓮尊者が地獄で母を救けるといふのを劇化した目蓮救母、これは人間界にある目蓮が陰界に赴くといふので、地獄の鬼や既に陰界の人となつた母などが出て來る。又探陰山といふ劇では名判官包公が、寃罪を調べるために自ら陰界に赴いて死人の口を割るといふ荒唐無稽なことが演ぜられる。この劇の趣旨は包公の威力を强調することにあると思はれる。烏盆計（別名奇寃報）といふ劇では、惡者が旅人の錢を盜るためにそれを殺して肉醬を作り、これに泥を混ぜて烏盆といふものを造つたところ、後にそれが他人の手に渡り、烏盆が人語を爲して非業の死を訴へる。これは亡魂が話をするので、劇では形を現はさず、幕の裏から演者が聲（歌も）だけを聞かせる。幽靈の出るので有名な劇は洪羊洞、これは楊繼業といふ宋の名臣の亡靈が、その子六郎の夢枕に現れて、遺骨の所在を告げる。この場合は普通の扮裝に陰界人物の印たる白紙を鬢に附けるだけである。

傳書鳩

水を治むる者 國を治むる歟

軍民一致のあらゆる努力も甲斐なく租界封鎖下の天津防水陣は遂に八月二十日、その一角を決潰され、黄濁の水は全市を蔽ふた。六月末から七月初旬にかけて降り續いた豪雨は、じりじり水嵩を加へ、やがて華北平野に氾濫し北上して天津に迫つたのである。自然の暴威遂に人力の如何とも抗し難きを覺えしむる。水を治むる者、國を治むといふ支那四千年の「悲哀」は我等の前に展開してゐるのである。支那人は之を沒法子と觀じてきた。しかし現在大陸に在る日本人は軍、民を問はず之を沒法子として、拱手傍觀は許されぬ。それは直ちに國策の死滅、聖戰の敗北を意味するからだ。現地に在る者は國策の射手によつて放たれた征矢である、遲疑、逡巡を蹴飛して遮二無二目的を貫徹せねばならない。かくて、軍も交通從事員も一般居留民も資材不足と炎熱を克服しつつ晝夜を分たぬ決死の奮鬪をつゞけてゐるのである。洪水が退いて避難民が復歸できるまでには三ケ月、或は半年はかゝるであらう。しかし、やがて來るべき物資の缺乏、流行病、飢餓、延いて人心の惡化に對して、現地各機關は骨肉を碎いてゐる。この際、日本の有する凡ゆる機關と蓄積せる力を動員して之を指導し協力せねばならない。机上で、棉花の出廻りを論じ、鹽の産額を計り、鐵道の建設を議することの無意味を、この洪水は遺憾なく我等に宣示するものだ。天然、地理に關する基本的調査研究が、新支那建設の前提條件であることを牢記せねばなるまい。

反英の嵐の中 北京外人調べ

反英・抗英・排英・打倒英國のビラが街に溢れてゐる北京、特に各國公使館區域―交民巷―の周圍は反英スローガンの洪水である。阿片戰爭以來、支那大陸を横行濶歩し・てきたジョンブルたるもの、百年目にして秋風落莫の感慨を禁じ得ないだらう。外人避暑地として有名な京山沿線の北戴河海水浴場でも、ドイツ、イタリー、アメリカなど各國旗が潮風に飜つてゐる中に、ユニオン・ヂヤツクは遂に一本も見當らなかつた。外人向きの支那人商店など「いえ、私の處には英國人は一人も來ません……」といふ遠慮ぶりだ。さて、七月末の北京在住の外國人調べによると、二十七ケ國千五百廿六名の外人のうち、斷然他を壓してゐるのはアメリカの四百廿四人、つぎはロシア(白系を含む)の二百九十人、ドイツの百八十五人、イギリスは第四位で百六十二人、次はフランスの百四十七人といふ順。これを今年一月末の調査に較べれば總數で五十四人を増加してゐる。各地の反英の狼火に追はれた英佛人が古都に安息所を求めて入込んで來たのだといふが、此處も彼等にはもう斷じて住みよくない筈。

選ばれたる若き人々

偉大なる建業は常に人材に俟つ。來年度卒業の新規採用について、華北交通會社は滿鐵と共同のもとに内地に於て愼重な詮衡が進められ華北交通採用豫定は大體左の如く決定をみた。卽ち、中學、商業、工業、農業、鐵道學校等中等學校級においては應募者千五百五十のうち四百名、專門大學級は事務系統應募者七百のうち五十八名、技術系統應募者二百五十のうち四十名を採用豫約した。中等程度が四人に一人、專門大學級が十二人に一人、生産力擴充で引張凧の筈の技術系統も六人强に一人の割合で、日本學生層に北支蒙疆進出希望の熾烈なことが窺はれる。嚴選の豫約者は何れも健全な精神に健全な身體の持主、學力また優秀なもの。これ等の若き未來の大陸男子は來年三月卒業と同時に赴任する。大陸と共に生き大陸の土に化するの心構へこそ肝要である。皇軍將士の尊き犧牲、銃を持たざる建設戰士の屍を踏み越えて、推し進められる興亞建業に參劃する若き人々への期待は大きい。

北支に於る防疫陣整備

近頃の日本では、惡疫と云へば、天津か上海から持ち込まれるやうに思ふのが常識。ところが其處へ、ちよつと待つたと新生途上の北支はテコを入れようと云ふのだ。と云ふのは南支方面に發生のコレラは最近武漢方面に猖獗を極めてゐるが、北支では本年度から軍が日支の防疫機關を統制動員して鐵道沿線の主要地區にそれぞれ防疫委員會を組織、四月以來滅蠅運動、淸掃運動、飲食店取締の徹底實施、さては豫防接種と八面六臂の大活躍に、七月までに接種人員も三百人を突破した。旣に北京を中心に靑島、濟南、太原、徐州、新鄕、石家莊に診療所を置く同仁會は本年から開封、保定にも診療所を新設、臨汾、運城にも近く設置して軍と協力でこれら主要地區の防疫にあたり、臨時政府も中央防疫委員會をして同仁會擔當地區以外の鐵

道沿線小都邑に防疫班を配置する。そこへ華北交通會社の移動防疫班を加へ各地區の防疫機關が總動員で完璧の防疫陣を張つてゐる。北支の防疫總本陣とも云ふべき中央防疫所、臨時政府衞生試驗所の設置も候補地を北京先農壇に決定、着々懸案の具體化が進められてゐる。今夏の北支殊に京漢線方面の豪雨は、例年なれば水害禍と共に惡疫發生を伴ふところだが、急速な復舊建設と萬全の防疫網で遺憾なきを期してゐる。かくて惡疫の持込みは英米殖民地からと思ふのが常識となる日も遠くなからう。

伸びゆく自動車路線

鐵道網の密度が極めて低い北支や蒙疆に於ては、鐵道の補助或は代行機關として自動車の占むる役割は特に大きい。人口一萬人當りの北支鐵道は僅々〇・七キロで濠洲はおろかブラジルにも及ばぬ貧弱さである。創業當時五千五百キロの北支自動車路線の經營を引受けた華北交通會社は、二ケ月後の六月には之を六千キロに伸長し、さらに七月中に一千餘キロの新路線を開設して同月末には七千百餘キロに達した。これに蒙疆の三千四百餘キロを加へれば、北支、蒙疆の全自動車路線は既に一萬キロを突破してゐる。昭和十七年末には、北支だけで二萬キロに達する見込で、華北交通では四ケ年計畫で一千名の自動車從事員の養成に努めてゐる。鐵道と自動車との競爭に悩みつゝある諸外國を尻眼に、北支では兩者が綜合的に一貫經營の妙味を發揮し、産業文化の開發に馬力をかけてゐるわけである。

華北交通の歌を懸賞募集

「交通の整備なくして國家の興隆、國防の安固、開發の進展を見たる歴史はない。斯くて大陸交通の整備が東亞新秩序の建設と亞細亞民族の興隆と如何に密接不可分に關係せるものなるかに想ひ到るとき我我交通事業に從事する者は、洵にその責任の重大なるを痛感する」とは、宇佐美華北交通總裁の言葉。この大陸整備に當るは華北交通日支八萬の社員。朔北の地に、黄土の高原に、或は山東の山地に、寒暑を分たず汗と血で彩る尊き建設工作が進められ且つ進みつゝある。北支蒙疆に亙る鐵路七千キロ、その整備と運營は一面戰爭一面建設の困難と闘ひつゝ築かれたもの。そうして次ぎ次ぎと民路合作をモツトーに、路は民と共にあり。民は路と共に榮えんと愛路工作、愛護村建設の進捗も目覺しく、鐵道を媒ちに日支融和の結實開花の慶びが演ぜられつゝある。然も地大物博の此の地の鐵道は、その人口と物資に反比例して稀薄な延長密度を示す。双肩にかゝる華北交通日支社員八萬が使命は今後に俟つところ愈々多大と云ふべし。難に赴き興亞大業の礎石を築く彼等が爲めに、相集つて唱ひ昨日の勞苦を慰め、明日の建設に相共に携へ相共に進まん熱情と意氣を湧き立たゝしむる八萬社員愛唱の歌こそ望ましい。そこで、華北交通會社社員會は「華北交通の歌」の歌詞を社員及び社外一般から懸賞募集することゝなつた。

その募集要旨は、社歌風又は行進曲風のもので、華北交通會社の使命、信念を表徴し、建設の精神を鼓吹するもの。應募は社内外を問はず。締切は九月末、發表は十月下旬。

天津の新市街建設進む

東京會談はデッド・ロックに乘上げた。天津の英佛租界は一體どうなるのか？ 北支の經濟首都、北支の世界貿易への關門なる天津。港として市場としての重要な機能は從來英佛租界の握るところであつた。現地代表引上げと行詰つた日英會談が好轉するとも思はれぬが、急轉直下解決を得た場合、英佛租界が再び天津の經濟中樞を握ることになるのか。それは事變の意義と新事態に逆行するものだ。日英會談の成否に拘らず引上げた日本會社並に個人の英佛租界復歸を許可せず、支那側もこれに準ずと現地日本當局も臨時政府も斷乎所信を表明した。然らば自ら英佛租界に代つて經濟中樞を掌る地域が必要となるわけ。そこで租界經濟對策委員會が熟慮の結果、愈愈天津都市計畫案が確立、特三區（舊ロシヤ租界）を中心に英佛租界の約三倍に當る廣大な新生天津の建設を目指してゐる。その新都市計畫の大要を摘記しよう。

一、天津東停車場を東北方約二キロの地點に移轉する。この新停車場を過ぎる新鐵路と白河の間の廣大な地域が天津市の將來の發展を抱擁するわけ。

二、交通の激増に備へて驛を貨物用と乘客用にわける。

三、飛行場の東北方を新市街の中心地とし白河に沿つて官廳街、その西方を商店街、東方を住宅地とする。

四、新市街と特一區とを結ぶために白河に河底トンネルを通す。計費二百萬以上、三ケ年の繼續工事とする。日本橋の外に、宮島街からも一つ新しくイタリー租界に橋を架ける。

九日（舊八月二十七日）
▽孔子祭・この日孔子の聖誕日で、事變前迄は隨分寂れてゐたのが去年から文廟で盛大な祭禮を復活した。臨時政府要人、日本側代表が列席の上、古禮樂を奏し、壯嚴に取行はれる。各學校は一日休課して祝ふ。

十三日（舊九月一日）
▽白雲觀九皇會・西便門外にあり、九日迄祭壇を設け道士が誦經する。尙各道院でも、それぞれ祭をする。九日は斗母の誕生日として祝ふ。

二十一日（舊九月九日）
▽重陽節・この日登高と云つて都人士茶菓を携へて高所に登る。西山・釣魚臺・陶然亭・北海・景山などその好適地。登高の傳說に曰く、昔費長房が汝南の桓景に向つて「九月九日お前の家に禍がある、家人に嚢を縫はせぐみの實を入れ、山に登つて免れるだらう」と云つたので一家擧つて山登りして歸つてみたら、家畜は皆死んでゐたと云ふ、これが登高の緣起だが、この頃の北京人はピクニツクに出る程度である。ぐみの實の代りに桑の實を持つて行く。又この日、宣武門外の松柏菴や梨園公會（芝居組合）では九皇會と云つて祭壇を設けてお祭りする。

二十七日（舊九月十五日）
▽財神廟開廟・廣安門外にあり、開廟三日、儲けごとの神樣で例によつて賑ふ。芝居役者、前門外の女郎など多く詣る。

☆　☆

〔新曆十月前半の雜事〕
○昔宮中では秋海棠、玉簪花を賞し始めて新酒を造られた。蟹肥ゆる時節で宮眷内臣嬉々として蟹を食べ、それが終ると蘇葉湯を飲んで手を洗つた。
○果物の出盛る頃で、葡萄、柘榴、栗、柿、棗、梨、林檎、落花生、その他瓜の類皆市場に上る。
○花には前述の他、桂（木犀）、鷄頭、雁來紅など。晚香玉、茉莉花は相變らず市場にみる。北京の木犀は有名なもので隆福寺、護國寺その他民家の庭先に香氣紛々と咲き出す。

〔新曆十月後半の雜事〕
○重陽節前後菊の花咲き盛る、これ又北京の秋を飾る代表の花。好者は種々の形に手入れして並べ、花城、九花塔などと名づけて眺める。九花と云ふのは菊花と音が近いからだ。九花菊花の種類は無慮百三十餘種と云はれ、中央公園、隆福寺の花時は雅客の遊ぶものが多い。豐臺の菊花は有名。又紅葉が美しくなるので、都人士郊外に紅葉狩の風流をなす。
○尙重陽節には烤羊肉（ジンギスカン料理）を食ひ、重陽花糕を食ふならはしがある。花糕は麥粉製の菓子で棗や栗、胡桃の實など挿み、表に菊の葉を貼りつけたもので厄除けになると云ふ。これは市中の菓子店で菊の花を浸した酒を飲む。菊の葉を戸障子に貼つて魔除けにする。蓋しこれも、前揭の傳說に因むものらしい。
○迎霜兎・重陽前後宴を設けて相招く、之を迎霜宴と云ふ、席間兎を食ふ、之を迎霜兎と云ふ、とあるがこれは既に廢れてゐるやうだ。
○時節の食物に黃花魚、蠣。野菜類に白菜。山東の梨、南方の蜜柑、甘蔗、北山の海棠の實、山査果、梨の類、日向葵の實など。

十月號
（毎月一回一日發行）
昭和十四年九月十五日印刷納本
昭和十四年十月一日發行
編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段（33）一四一五番　三三四四番
一冊定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ケ年分　金三圓六十錢
廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社
電話土佐堀九三九

Munaval
-NISSEN-

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑

ムナバール「日染」

純國産新發賣

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六％の硫黄を含有す。

【適應症】
疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】
一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十四年九月十五日印刷納本 昭和十四年十月一日發行（毎月一回一日發行）第五號

頭痛・感冒

最も進んだ
鎭痛・解熱劑

ソボリン

眩暈・齒痛・腰痛
神經痛・月經痛

藥物相乘作用を働く優れた成分

ソボリンの主藥は最新の鎭痛解熱劑として醫家に賞用されるボンピリンにアミノピリンとバルビタールとの分子結合體を配したもので、これらの成分藥物間に相互にその作用を强化する＝藥物相乘作用＝が營まれますから、その作用は非常に强大なものとなつて現れます。**ソボリン**の効果が斯種の藥劑中で特に秀でゝ强力なのは右の樣な理由によります。

少量でよく効き胃腸を害しない

頭痛の時、頭が重苦しく氣分がふさぎ、めまひのする時、風邪氣味で熱つぽい時、その他諸種の痛みや熱に對して**ソボリン**はほんの二錠でよく効めを現はし、然も作用が永續きしますから度々服用の必要がなくて大變經濟的です。しかも頭痛感冒藥の缺點とする胃腸や心臓への害作用のない點、**ソボリン**の誇りとする所です。

職場で、家庭で、學校で、手輕に服用し得られ……御婦人・老人・御子樣方にも安心して服用できます。

〔効能〕頭痛、頭重、感冒、眩暈、齒痛、耳痛、扁桃腺炎の疼痛、ロイマチス痛、神經痛、肩凝症、月經痛、腰痛、船車暈、結核性の微熱に。

發賣元 株式會社 武田長兵衞商店
大阪市東區道修町

〔藥價〕一回二錠・一日二回
四錠（三〇錢）
八錠（五〇錢）
二〇錠（一圓）
五〇錠（二圓）
一〇〇錠（三圓五〇）
全國藥店にあり。